先端人間科学　厚東 洋輔

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	10	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	40	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		0	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
博士後期課程		8	人			
	うち	社会人院生	2	人	留学生	1 人
研究生		0	人			
学部生		0	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本社会学会	理事	2003.1	2006.10
学術団体	日本学術会議	連携会員	2006.5.	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
評価・広報室	室員（副室長）	2004.4	
運営会議	委員	2004.4	
図書室	室長	2003.4	
人間科学研究倫理委員会	委員長	2006.1	

担当授業科目
理論社会学
社会学説史
社会学理論特講
社会学説史特講
先端人間科学特定研究Ⅰ
先端人間科学特定研究Ⅱ
先端人間科学特別研究Ⅰ
先端人間科学特別研究Ⅱ
先端人間科学フィールドワーク実習

【5】2005（平成17）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
	なし			

先端人間科学　前迫　孝憲

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		3	人			
	うち	社会人院生		2	人	留学生 1 人
博士後期課程		11	人			
	うち	社会人院生		6	人	留学生 1 人
研究生		1	人			
学部生		5	人			
学位申請者		1	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	教育システム情報学会	理事	平成 15 年 10 月	平成19年予定
協会	日本教育工学協会	理事	平成 14 年 4 月	平成20年予定
学会	日本科学教育学会	評議員	平成 10 年 7 月	平成20年予定
学会	日本教育工学会	評議員	平成 17 年 6 月	平成21年予定

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
教育情報化ワーキング	委員	平成 18 年 4 月	
情報ネットワークシステム委員会	委員	平成 18 年 4 月	平成20年 3 月
サイバーメディアセンター運営委員会	委員	平成 12 年 4 月	
サイバーメディアセンター広報委員会	委員	平成 12 年 4 月	

担当授業科目
コミュニケーションメディア特講 II
コミュニケーションメディア特定研究 I
コミュニケーションメディア特定研究 II
コミュニケーションメディア特定演習 I
コミュニケーションメディア特定演習 II
コミュニケーションメディア特別研究 I
コミュニケーションメディア特別研究 II
コミュニケーションメディア特別演習 I
コミュニケーションメディア特別演習 II
教育工学特定研究 I
教育工学特定研究 II
教育工学特定演習 I
教育工学特定演習 II
教育工学特別研究 I
教育工学特別研究 II
教育工学特別演習 I
教育工学特別演習 II
教育工学 II
教育工学演習 I
教育工学演習 II
臨床教育学実験実習 I
臨床教育学実験実習 II
臨床教育学実験実習 III
臨床教育学概論
卒業演習
卒業研究

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	Pilot Study on HyperMirror System for International Cultural Exchange in Elementary School via the Internet	Ako Imai, Shingo Yamashiro, Hideya Matsukawa, Masayuki Yamada, Takanori Maesako, Mitsunori shibao, Kouji Okuji and Kazuo ihara	2006.3	The Journal of Information and Systems in Education. 4(1) :65-70
学術論文	立体構成課題における前頭前野の酸素消費の特徴について	岡本尚子・江田英雄・山内留美・前迫孝憲・小池敏英・黒田恭史	2006.6	臨床脳波 48(6) :364-370
学術論文	「超鏡」における映像遅延の影響	重田勝介・中澤明子・松河秀哉・奥林泰一郎・三原勉・船田武志・大澤政寛・前迫孝憲・森川治	2006.11	ヒューマンインターフェース学会論文誌 8(4) :509-514
著書	超鏡と味覚データベースの融合	小柳道啓・森川治・吉本優子・前迫孝憲	2006.4	都甲潔・坂口光一編著「感性の科学」10 章; 朝倉書店 :183-199

大学・研究会等論文			2006.8	教育システム情報学会大会論文集 :
大学・研究会等論文	「超鏡」における映像遅延の影響	重田勝介・松河秀哉・中澤明子・前迫孝憲	2006.8	教育システム情報学会大会論文集 :467-468
大学・研究会等論文	これからの教育情報コミュニケーション環境	前迫孝憲	2006.11	日本教育工学会大会論文集 :565-566
大学・研究会等論文	「超鏡」における映像遅延の影響	重田勝介・中澤明子・松河秀哉・奥林泰一郎・三原勉・船田武志・大澤政寛・前迫孝憲・森川治	2006.11	日本教育工学会大会論文集 :295-296
大学・研究会等論文	「超鏡」の研修における Web サイト利用の効果	中澤明子・重田勝介・奥林泰一郎・前迫孝憲	2006.11	日本教育工学会大会論文集 :297-298
大学・研究会等論文	国際交流学習に至るまでの実践校と連絡調整とその課題	奥林泰一郎・重田勝介・中澤明子・前迫孝憲	2006.11	日本教育工学会大会論文集 :489-490
大学・研究会等論文	ボディメカニクス活用動作に関する教育用自己チェックシステムの試作	伊丹君和・安田寿彦・大槻幸範・前迫孝憲	2006.11	日本教育工学会大会論文集 :217-218
大学・研究会等論文	脳内生体情報活用による教育工学研究の実際と可能性	岡本尚子・黒田恭史・前迫孝憲	2006.11	日本教育工学会大会論文集 :277-278
大学・研究会等論文	遠隔講義による国際理解教育(その2)-異文化間コミュニケーション能力育成のための TV 会議システムの活用-	辻岡圭子・室岡義勝・岩居弘樹・前迫孝憲・松河秀哉・重田勝介	2006.11	日本教育工学会大会論文集 :299-300

先端人間科学　臼井 伸之介

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	40	%
社会貢献	15	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		4	人			
	うち	社会人院生	1	人	留学生	0 人
博士後期課程		1	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
研究生		0	人			
学部生		10	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	地域別議員	2003.4	2007.3
学会	日本人間工学会	評議員	2001.4	2007.3
学会	関西心理学会	委員	2003.4	2007.3
学会	電子情報通信学会　安全性研究専門委員会	委員	2004.1	2007.5
国・地方公共団体	国土交通省　運転士の資質向上検討委員会	委員	2005.7	2007.3
独立行政法人	日本学術振興会	専門委員	2006.1	2007.12
独立行政法人	労働安全衛生総合研究所	フェロー研究員	2004.4	2007.3
独立行政法人	製品評価技術基盤機構	事故原因技術解析ワーキンググループ　委員	2003.5	2007.4
独立行政法人	原子力安全基盤機構	人文・社会科学基盤調査研究検討会　委員	2006.6	2008.3
独立行政法人	労働安全衛生総合研究所	ＩＴを活用した安全衛生管理手法の構築に関する委員会　委員	2006.6	2007.3
公益法人	財団法人　労働科学研究所	協力研究員	2000.4	2007.3
公益法人	財団法人　労働科学研究所	編集協力委員	2004.4	2007.3
公益法人	財団法人　国土技術研究センター建設工事事故対策検討委員会	委員	2004.7	2007.3
公益法人	財団法人　関西情報・産業活性化センター	委員	2005.12	2007.3
公益法人	社団法人　日本労働安全衛生コンサルタント会	リスクアセスメント教材作成委員会　委員長	2006.6	2007.3

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
安全衛生管理委員会	委員	2004.3	2007.3

担当授業科目
リスク人間科学特定演習Ⅰ
リスク人間科学特定演習Ⅱ
リスク人間科学特別演習Ⅰ
リスク人間科学特別演習Ⅱ
リスク人間科学特講Ⅱ
リスク人間科学特定研究Ⅰ
リスク人間科学特定研究Ⅱ
リスク人間科学特別研究Ⅰ
リスク人間科学特別研究Ⅱ
応用行動学特定演習Ⅰ
応用行動学特定演習Ⅱ
応用行動学特別演習Ⅰ
応用行動学特別演習Ⅱ
応用行動学特定研究Ⅰ
応用行動学特定研究Ⅱ
応用行動学特別研究Ⅰ
応用行動学特別研究Ⅱ
応用行動学特講Ⅱ
人間科学方法演習
人間科学方法研究
現代社会の行動学
地球環境と安全･安心の意識
心理学測定
リスク心理学
交通行動学演習 Ⅰ
交通行動学演習 Ⅱ
人間行動学実験実習 Ⅰ
人間行動学実験実習 Ⅱ
人間行動学実験実習 Ⅲ
卒業演習
卒業研究

【5】2006(平成18)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書	人とわざわい 上巻 ／ ヒューマンエラーと重大事故	人とわざわい編集委員会編 臼井伸之介	2006.9	エス・ビー・ビー
学術論文	Consideration about Psychological Factors in Labour Accidents in Japanese Construction Work	Nakamura T., Usui S., Shinohara K., Kanda K., Tachikake T., Wada K.	2006.6	PROBABILISTIC SAFETY ASSESSMENT AND MANAGEMENT, PSAM-0132, 1-6.
学術論文	運転場面におけるリスクテイキング行動の一貫性検証	中井宏、臼井伸之介	2006.11	応用心理学研究, Vol.32, No.1, 1-10.
学術論文	自動車運転場面におけるリスクテイキング行動に関する研究 -行動観察と意識調査の両側面から-	中井宏、臼井伸之介	2006.8	電子情報通信学会技術研究報告(安全性), 1-4.
大学・研究所等の報告	リスクマネジメント教育の有効性評価に関する総合的研究	臼井伸之介、篠原一光、山田尚子、神田幸治、中村隆宏、和田一成、太刀掛俊之	2007.3	厚生労働科学研究費補助金平成18年度総括・分担研究報告書
会議報告	産業界の安全活動の現状と課題 その安全対策は有効ですか？ -心理学の視点で考える交通・産業・医療のヒューマンエラー・違反の防止策-	臼井伸之介	2006.11	日本心理学会公開シンポジウム, 日本心理学会第70回大会発表論文集
会議報告	A study on the effectiveness of safety education in nursing: Results of questionnaire survey	Usui S., Wada K., Tachikake T. and Aoki, Y.	2006.7	International Congress of Applied Psychology
会議報告	A Study of university accidents with emphasis on human factors	Tachikake T., Yamamoto H., and Usui S.	2006.7	International Congress of Applied Psychology
会議報告	Effects of task costs and risk cognition on rule-violation behavior	Wada K., Usui S., Shinohara K., Kanda K., Nakamura T, Yamada N. and Murakami K.	2006.7	International Congress of Applied Psychology
会議報告	The influence of individual difference in the control of attention on subjective mental workload ratings	Shinohara K., Yamada N., Kanda K. Nakamura T., Tachikake T., Wada K. and Usui S.	2006.7	International Congress of Applied Psychology
会議報告	Cognitive failures questionnaire and visual attention under time pressure situation	Kanda K., Usui S., Shinohara K., Nakamura T., Tachikake T. and Wada K.	2006.7	International Congress of Applied Psychology
会議報告	看護業務における安全意識および安全活動に関する質問紙調査	和田一成、臼井伸之介	2006.6	日本人間工学会第 47 回大会講演集
会議報告	大学における実験研究時の事故に関する傾向分析	太刀掛俊之、臼井伸之介、山本仁	2006.6	日本人間工学会第 47 回大会講演集
会議報告	看護師の人間関係とバーンアウトの関連	松本友一郎、臼井伸之介	2006.9	産業・組織心理学会第22回大会論文集

会議報告	運転技能の自己評価が運転場面での実行動に及ぼす影響の分析	中井宏、臼井伸之介	2006.9	日本応用心理学会第73回大会論文集.
会議報告	作業の中断:中断の移行パターンが作業パフォーマンスに及ぼす影響	小倉有紗、臼井伸之介	2006.11	日本心理学会第70回大会発表論文集,
会議報告	看護場面における危険認知に関する実験的検討	安達悠子、臼井伸之介	2006.11	日本心理学会第70回大会発表論文集
会議報告	看護師の対人ストレッサーに関する検討	松本友一郎、臼井伸之介	2006.11	日本心理学会第70回大会発表論文集
会議報告	前方への視覚的注意が音源定位に及ぼす影響	上田真由子、太刀掛俊之、臼井伸之介	2006.11	日本心理学会第70回大会発表論文集
会議報告	リスク敢行/回避の規定因に関する研究	中井宏、臼井伸之介	2006.11	関西心理学会第 118回大会発表論文集
会議報告	作業の中断:テキストエディタ作業における Interruption Lag の効果	小倉有紗、臼井伸之介	2006.11	関西心理学会第 118回大会発表論文集
会議報告	コスト認知とリスク認知のバランスが違反行動の生起に及ぼす影響	村上幸史、臼井伸之介、和田一成、篠原一光、神田幸治、中村隆宏、山田尚子、太刀掛俊之	2006.11	関西心理学会第 118回大会発表論文集
会議報告	看護場面における違反事例の収集とその内容分析　−心理的要因との関係−	安達悠子、臼井伸之介、松本友一郎、青木喜子、篠原一光、山田尚子、神田孝治、中村隆宏、和田一成、太刀掛俊之	2006.12	日本人間工学会関西支部平成18年度支部大会発表論文集
会議報告	運転技能における過信度測定ツールの開発とその有効性検証	中井宏、臼井伸之介	2006.12	大阪交通科学研究会平成18年度学術研究発表会講演論文集

先端人間科学　草郷 孝好

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	55	%
教育	30	%
社会貢献	5	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		0	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
博士後期課程		0	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
研究生		0	人			
学部生		6	人			
学位申請者		2	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	特定非営利活動法人開発と未来工房	理事	2005.3	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
人間科学プロジェクト特講Ⅰ
人間科学プロジェクト特講Ⅱ

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	″Rethinking of Economic Growth and Life Satisfaction in Post-WWII Japan – A Fresh Approach″	Kusago, Takayoshi	In press	Social Indicators Research
研究報告	「地域の「創造力」向上を目指した再生のあり方」報告書 『第2節地域コミュニティの持続的発展指標の形成と実際』	草郷孝好	In press	北海道未来総研
著書（共著）	“Women’s Empowerment through Workers Collectives and Cooperatives in Japan: Sapporo Women’s Workers Collectives Case Study”, A Gender Agenda: Asia-Europe Dialogue 3: Economic Empowerment for Gender Equality pp. 47-75.	Kusago, Takayoshi	2007.1	Asia-Europe Foundation
雑誌記事	『社会実践プロセス共有メディア』への期待	草郷孝好	2007.2	（社）北海道総合研究調査会
単行本（共著）	「自分の成長につながる学びは、必ず社会の力につながる」（どうして勉強するの？お母さん）	草郷孝好	2006.12	しゃりばり

先端人間科学　峯 陽一

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	20	%
社会貢献	20	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		2 人			
	うち	社会人院生	人	留学生	1 人
博士後期課程		人			
	うち	社会人院生	人	留学生	人
研究生		人			
学部生		人			
学位申請者		人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	JICA（国際協力機構）国際協力総合研修所	調査・研究懇談会委員	2005 年 7 月より	活動中
	JICA（国際協力機構）国際協力総合研修所	「国のリスク対応能力を踏まえた中長期的な支援のあり方」研究会委員	2006 年 4 月より	活動中
	JICA（国際協力機構）アフリカ部	タンザニア国地方開発セクタープログラム策定支援調査国内支援委員	2003 年度より	活動中
	JICA（国際協力機構）	『国際協力研究』誌外部審査委員	2006 年 7 月より	活動中
	日本アフリカ学会	理事	2002 年 5 月より	活動中
	ヒューマンセキュリティ・サイエンス学会	副会長・理事	2006 年 9 月より	活動中

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
JICA協定検討WG	委員		

担当授業科目
現代社会学特定研究Ⅰ・Ⅱ（大学院）
現代社会学特定演習Ⅰ・Ⅱ（大学院）
Independent Study 指導（OUSSEP 短期留学生1名）

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術書の章	「人間の安全保障とダウンサイド・リスク」『国際開発とグローバリゼーション（シリーズ国際開発第 5 巻）』、第 7 章（217-238 ページ）。	山下彰一・西川潤・高橋基樹編	2006 年 6 月	日本評論社
雑誌論文	The Political Element in the Works of W. Arthur Lewis: The 1954 Lewis Model and African Development	Yoichi Mine	2006 年 9 月	*The Developing Economies,* Vol. 44, No. 3, 2006, pp. 329-55.

先端人間科学　乾 美紀

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	20	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。(助手のためなし)

＜人数＞

博士前期課程 ＿＿＿＿ 人
うち 社会人院生 ＿＿＿＿ 人　留学生 ＿＿＿＿ 人
博士後期課程 ＿＿＿＿ 人
うち 社会人院生 ＿＿＿＿ 人　留学生 ＿＿＿＿ 人
研究生 ＿＿＿＿ 人
学部生 ＿＿＿＿ 人
学位申請者 ＿＿＿＿ 人

【4】2006(平成18)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	日本比較教育学会	関西地区幹事	2006 年 4 月	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目

【5】2006(平成18)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書・分担執筆	「難民ニューカマーの教育問題と職業―在日ラオス系定住者を中心として」『開発と国際協力の教育社会学』	乾美紀（山内乾史編著）	2007 年 2 月	ミネルヴァ書房
同上	「ラオスの教育と教育計画」『現代アジアの教育計画』	乾 美紀（山内乾史、杉本均編著）	2006 年 4 月	学文社
学術論文	「ブルネイ王国における ICT 教育の現状と課題」『アジア教育研究報告』第 7 号	乾 美紀	2006 年 10 月	京都大学教育科学研究科
同上	「ラオス系難民子弟の義務教育後の進路に関する研究―「文化資本」からのアプローチ―」『人間科学研究紀要』第 33 号	乾 美紀	2007 年 3 月発行予定	大阪大学人間科学研究科

行動学系　森川 和則

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	10	%
教育	38	%
社会貢献	2	%
学内運営	50	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		0	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
博士後期課程		0	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
研究生		0	人			
学部生		3	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
施設マネジメント委員会キャンパス・マスタープラン作成ワーキンググループ	委員	2004.10.5	
人間科学研究科教務委員会	教務委員	2006.5.1	

担当授業科目
心理学測定（学部）
基礎心理学（学部）
実験心理学演習 I（学部）
実験心理学演習 II（学部）
人間行動学実験実習 I（学部）
人間行動学実験実習 II（学部）
人間行動学実験実習 III（学部）
卒業演習
卒業研究
基礎心理学特講 II（大学院）
基礎心理学特定研究 I（大学院）
基礎心理学特定研究 II（大学院）
基礎心理学特定演習 I（大学院）
基礎心理学特定演習 II（大学院）
基礎心理学特別研究 I（大学院）
基礎心理学特別研究 II（大学院）
基礎心理学特別演習 I（大学院）
基礎心理学特別演習 II（大学院）

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書（共著）	実践的研究のすすめ（第6章　実験法）	森川和則	2007年3月	有斐閣

行動学系　川村 智

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献		%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程			人		
	うち	社会人院生	人	留学生	人
博士後期課程			人		
	うち	社会人院生	人	留学生	人
研究生			人		
学部生		3	人		
学位申請者			人		

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
人間行動学実験実習 I
人間行動学実験実習 II
人間行動学実験実習 III

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
会議報告	顔の表情が性別印象に与える効果	川村智・小森政嗣	2006.8	日本認知心理学会第4回大会
学術論文	Smiling faces rated more feminine than serious faces in Japan.	Satoru Kawamura, Keiko Kageyama	2006.10	Perceptual and Motor Skills
会議報告	顔の印象評価における世代間の違い I	川村智・小森政嗣	2006.11	日本心理学会第 70 回大会
会議報告	顔の印象評価における世代間の違い II	小森政嗣・川村智	2006.11	日本心理学会第 70 回大会

行動学系　三浦 利章

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	35	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		3	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
博士後期課程		4	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
研究生		0	人			
学部生		5	人			
学位申請者		1	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
独立行政法人	製品評価技術基盤機構近畿支所	事故原因技術解析 WG 委員	2006.5	2008.3
公益法人	大阪自動車学校協会	講師	1990.4	
学会	日本人間工学会	評議員	2005.4	
学会	日本人間工学会関西支部	顧問	2005.4	
特定非営利活動法人	モバイル学会	監査	2006.10	
学会	日本認知心理学会	常任理事、編集委員長	2004.6	
その他	独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	NEDO　ピアレビューアー	1998.2	
学会	International Association of Vision in Vehicles Scientific Committee	科学委員	1996.2	
学会	関西心理学会	常任役員	1995.4	
独立行政法人	交通安全環境研究所	客員研究員	2003.12	
社団法人	日本心理学会	専門別代議員	2001.4	
学会	日本基礎心理学会	評議員	2005.6	
独立行政法人	日本学術振興会	日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員	2005.8	2007.3
独立行政法人	日本学術会議	日本学術会議連携会員	2006.8	2011.9
財団法人	交通事故総合分析センター	アルコールが運転に与える影響に関する調査研究会委員	2005.8	2007.3

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
工作センター運営委員会	委員	2001.4	2006.4

担当授業科目
応用認知行動学
応用認知行動学演習Ⅰ
応用認知行動学演習Ⅱ
人間行動学実験実習 Ⅰ
人間行動学実験実習 Ⅱ
人間行動学実験実習 Ⅲ
卒業演習
卒業研究
適応認知行動学特講Ⅰ
適応認知行動学特別演習Ⅰ
適応認知行動学特別演習Ⅱ
適応認知行動学特別研究Ⅰ
適応認知行動学特別研究Ⅱ
適応認知行動学特定演習Ⅰ
適応認知行動学特定演習Ⅱ
適応認知行動学特定研究Ⅰ
適応認知行動学特定研究Ⅱ

【5】2005(平成17)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	聴覚刺激提示による記憶負荷が運転時の光点検出課題に及ぼす影響	木村貴彦・篠原一光・駒田悠一・三浦利章	2006.10	交通科学
学術論文	高齢者の認知機能	木村貴彦・三浦利章・土居俊一	印刷中	心理学研究
学術論文	Allocation of Attention and Effect of Practice on Persons with and without Mental Retardation	Oka, K & Miura, T.	in press	*Research in Developmental Disabilities*
学術論文	モダリティーと空間に対する注意の加算性	上田真由子、三浦利章	印刷中	基礎心理学研究, 25(2)
専門書	視覚的注意と安全性:基礎応用的研究	三浦利章	印刷中	東京大学出版会
専門書	事故と安全の心理学	三浦利章、原田悦子(編著)	印刷中	東京大学出版会

行動学系　篠原　一光

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	50	%
教育	20	%
社会貢献	20	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		3	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
博士後期課程		4	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
研究生		0	人			
学部生		5	人			
学位申請者		1	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
公益法人	特定非営利法人ウェアラブルコンピュータ研究開発機構	HMD 安全委員会委員	2004.9	
公益法人	社団法人自動車技術会	車両特性企画部会ドライバー評価手法部門委員	2004.4	
学会	大阪交通科学研究会	学会誌編集委員	2004.4	
学会	日本認知心理学会	理事・学会誌編集委員	2003.5	
公益法人	特定非営利法人モバイル学会	理事	2002.4	
学会	日本人間工学会関西支部	企画幹事	2001.4	
公益法人	財団法人鉄道総合技術研究所	リサーチアドバイザー	2005.7	
公益法人	社団法人大阪自動車学校協会	法定講習講師	2003.4	
公益法人	社団法人大阪府交通安全協会	安全運転管理者法定講習講師	2002.4	
公益法人	社団法人自動車技術会	論文校閲委員・車両特性企画部会ドライバ評価手法部門委員	2004.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
職員集会所「さわらび」運営委員会	委員	2005.9	

担当授業科目
応用認知行動学
心理学実験
適応認知行動学演習Ⅰ
適応認知行動学演習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅰ
人間行動学実験実習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅲ
適応認知行動学特講Ⅰ
適応認知行動学特定演習Ⅰ
適応認知行動学特定演習Ⅱ
適応認知行動学特定研究Ⅰ
適応認知行動学特定研究Ⅱ
適応認知行動学特別演習Ⅰ
適応認知行動学特別演習Ⅱ
適応認知行動学特別研究Ⅰ
適応認知行動学特別研究Ⅱ
心理学入門

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
会議報告/口頭発表	変化検出課題を用いた車載情報機器利用時の注意転導の評価	篠原一光,中村隆宏,龍田成示,井場陽一	2006/11/1	日本心理学会第 70 回大会論文集
会議報告/口頭発表	ワーキングメモリ容量の個人差と注意制御機能の関係	高原美和・三浦利章・篠原一光・木村貴彦	2006/11/1	日本心理学会第 70 回大会論文集
会議報告/口頭発表	立体視空間内での課題遂行における光学的流動の影響	木村貴彦・緑川直幸・篠原一光・三浦利章	2006/11/1	日本心理学会第 70 回大会発表論文集
学術論文	聴覚刺激提示による記憶負荷が運転時の光点検出課題に及ぼす影響	木村貴彦・篠原一光・駒田悠一・三浦利章	2006/10/1	交通科学
会議報告/口頭発表	多視点ディスプレイを用いた車載情報機器利用により生じる注意転導の評価	篠原一光,中村隆宏,龍田成示,井場陽一	2006/9/1	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2006 論文集
会議報告/口頭発表	視覚探索課題を用いた車載情報機器利用時の注意転導の評価と分析	篠原一光,中村隆宏,龍田成示,井場陽一	2006/8/1	日本認知心理学会第 4 回大会発表論文集
会議報告/口頭発表	注意制御に関する抑制機能と日常行動の関係に見られる年齢差	高原美和,三浦利章,篠原一光,木村貴彦	2006/8/1	日本認知心理学会第 4 回大会発表論文集
会議報告/口頭発表	同時に注意する対象数が方向変化検出にもたらす効果	駒田悠一,篠原一光,木村貴彦,三浦利章	2006/8/1	日本認知心理学会第 4 回大会発表論文集

会議報告/口頭発表	The influence of individual difference in the control of attention on subjective mental workload ratings	Shinohara,K., Yamada,N., Kanda,K., Nakamura,T., Tachikake,T., Wada, K. and Usui,S.	2006/7/1	Proceedings of the 26th International congress of applied psychology
会議報告/口頭発表	Effects of task costs and risk cognition on rule-violation behavior	Wada, K., Usui, S., Shinohara, K., Kanda, T., Nakamura, N. Yamada, N., and Murakami, K.	2006/7/1	Proceedings of the 26th International congress of applied psychology
会議報告/口頭発表	Cognitive failures questionnaire and visual attention under time pressure situation	Kanda,K., Usui,S., Shinohara,K., Nakamura, T., Tachikake, T. and Wada, K.	2006/7/1	Proceedings of the 26th International congress of applied psychology
会議報告/口頭発表	標的への感度における加齢変化　－注意制御機能に関する検討－	高原美和・木村貴彦・篠原一光・三浦利章	2006/6/1	日本基礎心理学会第 25 回大会発表要旨集

行動学系　木村　貴彦

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	35	%
社会貢献	15	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞　（全て 3 名の教員で指導）

博士前期課程		2	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生　0　人
博士後期課程		4	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生　0　人
研究生		0	人			
学部生		6	人			
学位申請者		1	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
研究会	日本心理学会注意と認知研究会	運営委員	2004. 3	
学会	日本人間工学会関西支部	企画委員	2003. 4	
委員会	滋賀県交通事故分析委員会	委員	2006. 4	
研究会	ヒューマンインターフェイス学会アクセシブル・インターフェイス専門研究会	総務担当幹事・リエゾン委員	2007. 1	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
心理学実験（他の教員と共同）
人間行動学実験実習 I
人間行動学実験実習 II
人間行動学実験実習 III

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	三次元空間における注意資源配分　－判断難易度からの検討-	木村貴彦・三浦利章・土居俊一	印刷中	心理学研究
学術論文	聴覚刺激提示による記憶負荷が運転時の光点検出課題に及ぼす影響	木村貴彦・篠原一光・駒田悠一・三浦利章	2006.10	交通科学
会議報告	運転場面における運転者の奥行注意特性の解析	福嶋正人・土居俊一・木村貴彦・三浦利章	2006.11	第21回生体・生理工学シンポジウム論文集
報告書	加齢に伴う注意・認知機能の変化と類型化	三浦利章・篠原一光・木村貴彦・高原美和	2007.2	文部科学省科学研究費補助金「特定領域研究」障害者・高齢者のコミュニケーション機能に関する基礎的研究 2006 年度研究成果報告書(pp.158-164)

行動学系　大坊 郁夫

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	35	%
社会貢献	15	%
学内運営	25	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		8	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
博士後期課程		5	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	1 人
研究生		2	人			
学部生		9	人	注)この他に2回生5名については、教授2名で共同指導		
学位申請者		2	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	理事	2005. 7	2007. 6
学会	日本心理学会	広報誌編集委員長	2005. 7	2007. 6
学会	日本社会心理学会	会長	2005. 4	2009. 3
学会	日本心理学諸学会連合	常任理事	2006.12	
学会	日本顔学会	理事	2007. 1	
学会	電子情報通信学会ヒューマン基礎研究専門委員会	専門委員長	2005. 5	2007. 4
学会	日本コミュニケーション学会	理事	2006. 6	
学会	日本応用心理学会	理事	2006. 4	
学会	日本感情心理学会	常任理事	1997. 4	
財団法人	大学基準協会	評価委員	2006. 4	2009. 3
独立行政法人	日本学術会議	連携会員（第一部）	2006. 8	2011. 9

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
評価委員会	委員	2003. 5	2007. 3
研究科評価委員会	委員長	2003. 5	2007. 3

担当授業科目
社会心理学演習
社会心理学
対人行動学
人間行動学実験実習 Ⅰ
人間行動学実験実習 Ⅱ
人間行動学実験実習 Ⅲ
対人行動学演習
卒業演習
卒業研究
対人社会心理学特定演習Ⅰ
対人社会心理学特定演習Ⅱ
対人社会心理学特講Ⅰ
対人社会心理学特講Ⅱ
対人社会心理学特定研究Ⅰ
対人社会心理学特定研究Ⅱ
対人社会心理学特別演習Ⅰ
対人社会心理学特別演習Ⅱ
対人社会心理学特別研究Ⅰ
対人社会心理学特別研究Ⅱ

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
専門著書(分担執筆)	幸福感および生きがいと人間関係	大坊郁夫	2006. 4	島井哲志編　ポジティブ心理学－21 世紀の心理学の可能性、12 章、Pp.193-208. ナカニシヤ出版
専門著書(分担執筆)	Wellbeing を目指す社会心理学の実践	大坊郁夫	2006. 9	中村　完編　環境のモデルノロジー　、Pp.95-113. 北大路書房
専門著書(分担執筆)	社会的スキルを磨く	大坊郁夫	2007. 1	菊池章夫編　社会的スキルを測る:KiSS-18 ハンドブック Ⅴ章　社会的スキルの問題. Pp.173-179. 川島書店
辞典	応用心理学事典	日本応用心理学会編(編集担当)	2007. 1	丸善
学術論文	コミュニケーションが築く高質の対人関係－社会性の維持・回復を目指すために－	大坊郁夫	2006. 3	対人社会心理学研究, 6, 1-6
学術論文	社会的スキル・トレーニングに生かされる言語・非言語コミュニケーションの働き	大坊郁夫	2006. 8	電子情報通信学会技術研究報告、106(219), 31-36
学術論文	3 次元計測法による顔面表情に伴う顔形態特徴の測定(1) －中国人大学生の特徴－	大坊郁夫・上出寛子・毛 新華	2006.10	電子情報通信学会技術研究報告、106(268), 29-34.
学術論文	3次元計測法による顔面表情に伴う顔形態特徴の測定(2)－中国人大学生の社会的スキルと顔面表情との関係－	上出寛子・大坊郁夫・毛 新華	2006.10	電子情報通信学会技術研究報告、106(268), 35-40.

学術論文	Interactional synchrony in conversations about emotional episodes: A measurement by “the between--participants pseudosynchrony experimental paradaigm”	Masanori Kimura & Ikuo Daibo	2006. 9	Journal of Nonverbal Behavior, 30, 115-126.
学術論文	大学生社会技能量表(ChUSSI)的初歩編制	毛 新華・大坊郁夫	2006.10	中国心理衛生雑誌，20巻、679-683
学術論文	小集団会話における話者の発言傾向を規定する3要素	藤本 学・大坊郁夫	2006. 9	社会言語科学，9 巻，48-58.
学術論文	美しく魅せるための心理学－化粧の心理的な働き－	大坊郁夫	2007. 2	日本産業皮膚衛生協会ジャーナル,57 号(Vol.29,No.2),44-50.
学会報告	こころの変身－外見とこころのダイナミズムについての文化的視点 ＜日本心理学会主催シンポジウム＞	大坊郁夫・箱井英寿・趙 鏞珍・菅原健介・野澤桂子	2006.11	日本心理学会第 70 回大会発表論文集, p.S10.
学会報告	The effects of the subjective perception of the past interpersonal relationships on the present self and well-being	KAMIDE,H. and DAIBO, I.	2006.10	4th World Conference: Developing Resilience and Strength Across the Life Span, Oslo, Norway
学会報告	Which dimensions of flexibility of self-aspects are beneficial for mental health?	KAMIDE,H. and DAIBO, I.	2007.1	The 8th annual meeting of the Society for Personality and Social Psychology, Memphis, TN. USA
学会報告	Normative conflict resolution strategies and the role of social skills	SHIMIZU, H & DAIBO, I	2007.1	The 8th annual meeting of the Society for Personality and Social Psychology, Memphis, TN. USA

行動学系　釘原　直樹

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	45	%
社会貢献	5	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		2 人				
	うち	社会人院生	0 人		留学生	0 人
博士後期課程		0 人				
	うち	社会人院生	0 人		留学生	0 人
研究生		0 人				
学部生		9 人				
学位申請者		0 人				

【4】2005（平成17）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	編集委員	2003.5	
学会	日本社会心理学会	監事	2003.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
図書館委員会	委員	2005.4	
付属図書館豊中地区運営委員会	委員	2005.4	

担当授業科目
社会心理学演習
集団力学
人間行動学実験実習　Ⅰ
人間行動学実験実習 Ⅱ
人間行動学実験実習 Ⅲ
対人行動学演習
卒業演習
卒業研究
対人社会心理学特定演習Ⅰ
対人社会心理学特定演習Ⅱ
対人社会心理学特講Ⅰ
対人社会心理学特講Ⅱ
対人社会心理学特定研究Ⅰ
対人社会心理学特定研究Ⅱ
対人社会心理学特別演習Ⅰ
対人社会心理学特別演習Ⅱ
対人社会心理学特別研究Ⅰ
対人社会心理学特別研究Ⅱ

【5】2005(平成17)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
専門著書	心理学ワールド / パニック行動	釘原直樹	2006.7	日本心理学会

行動学系　　磯　友輝子

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	10	%
教育	40	%
社会貢献	5	%
学内運営	45	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程　　人
　うち　社会人院生　　人　　留学生　　人
博士後期課程　　人
　うち　社会人院生　　人　　留学生　　人
研究生　　人
学部生　　人
学位申請者　　人

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
心理学実験
人間行動学実験実習Ⅰ
人間行動学実験実習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅲ

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
解説・総説	研究最前線 「話が上手い人」ってどんな人？―円滑な対人コミュニケーションのメカニズムの解明	磯　友輝子	2006.8.	社会言語科学会ニュースレター第 22 号, 2-3.
解説・総説	対人コミュニケーション―あなたは、表情態度で損をしていませんか？―	磯　友輝子	2006.10.	日本リフレクソロジスト養成学院講演資料（未公刊）

行動学系　藤田　綾子

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	55	%
社会貢献	5	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		5	人			
	うち	社会人院生	1	人	留学生	0 人
博士後期課程		10	人			
	うち	社会人院生	2	人	留学生	1 人
研究生		1	人			
学部生		8	人			
学位申請者		3	人	以上の学生を教員1名で担当		

【4】2005（平成17）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	会員	1970	
学会	日本老年社会学会	評議員・査読委員	1990	
学会	日本社会心理学会	会員	1985	
	大阪府社会福祉事業団	評議員	1999	
	宝塚市市長倫理委員	委員	2000	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
学生支援室委員会	委員長	2004.1	
学生生活委員	委員	2006.4	

担当授業科目
人間行動学実験実習Ⅰ
人間行動学実験実習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅲ
臨床老年行動学演習Ⅰ
臨床老年行動学演習Ⅱ
臨床老年行動学
卒業演習
卒業研究
臨床死生学・老年行動学特講Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特講Ⅱ
臨床死生学・老年行動学特定演習Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特定演習Ⅱ
臨床死生学・老年行動学特定研究Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特定研究Ⅱ
臨床死生学・老年行動学特別演習Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特別演習Ⅱ
臨床死生学・老年行動学特別研究Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特別研究Ⅱ

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
専門著書	超高齢社会は高齢者が支える	藤田綾子	2007.3	大阪大学出版会
教科書	高齢社会を支える社会システム	藤田綾子	2007.3	放送大学出版会
学術論文	高齢者の消費行動に関する研究	藤田綾子	2006.12	本講座

行動学系　平井 啓

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。
＜人数＞

博士前期課程　3 人　（研究室全体では 9 名で3名の教員で指導、そのうち直接指導する立場にある者）
うち　社会人院生　　人　留学生　　人

博士後期課程　4 人　（研究室全体では 10 名で3名の教員で指導、そのうち直接指導する立場にある者）
うち　社会人院生　　人　留学生　　人

研究生　　人
学部生　13 人
学位申請者　　人

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本サイコオンコロジー学会	世話人　広報委員	2005.6	
学会	日本行動医学会	教育研修委員	2005.4	
研究会	補完医療を考える会	世話人	2006.1	
研究会	膵・膵島移植研究会	QOL 委員会	2006.11	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
心理学実験
人間行動学実験実習 I
人間行動学実験実習 II
人間行動学実験実習 III

【5】2006(平成18)年度 著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	Good death in Japanese cancer care: a qualitative study. Journal of Pain and Symptom Management	Hirai, K., Miyashita, M., Morita, T., Sanjo, M., Uchitomi, Y.	2006.4	Journal of Pain and Symptom Management, 2006 31(2): 140-147.
学術論文	末期癌患者への病名告知とコミュニケーションの現状.	平井　啓, 原　俊昭, 篠崎　毅, 布施和美, 村田静枝, 柏木哲夫	2006.5	緩和ケア, 16,179-184
学術論文	Knowledge and belief about end-of-life care and the effects of specialized palliative care: a population-based survey in Japan.	Morita, T., Miyashita, M., Sanjo, M., Hirai, K., Ashiya, T., Ishihara, T., Matsubara, T., Miyoshi, I., Nakaho, T., Nakashima, N., Onishi, H., Ozawa, T., Suenaga, K., Tajima, T., Akechi, T., Uchitomi, Y.	2006.4	Journal of Pain and Symptom Management, 31(4): 306-16
学術論文	肺がん患者を対象とした外来化学療法に関する意思決定バランス尺度の開発.	荒井弘和, 平井　啓, 所　昭宏, 中　宣敬	2006.7	行動医学研究　12: 1-7
学術論文	肺がん患者におけるサポートネットワークサイズとその予測要因.	塩崎麻里子, 平井　啓, 所　昭宏, 荒井弘和, 中　宣敬	2006.9	心身医学　46: 883-890
解説・総説	がん患者に対するストレスケアとコミュニケーション.	平井　啓	2006.8	こころケア　9, 2, 51-58,

行動学系　桑野　園子

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	60	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		3	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	1 人
博士後期課程		1	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
研究生		0	人			
学部生		2	人			
学位申請者		1	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
国・地方公共団体	日本学術会議	会員	2005.10	
国・地方公共団体	中央環境審議会	臨時委員	2001.1	
国・地方公共団体	環境省総合研究開発推進会議	検討員	2002.5	
国・地方公共団体	環境省独立行政法人評価委員会	委員	2005.5	
国・地方公共団体	大阪府環境影響評価審査会	委員	2000.5	
国・地方公共団体	大阪府公害審査会	委員	1994.11	
国・地方公共団体	大阪府環境審議会	委員	2004.6	
国・地方公共団体	大阪市環境審議会	委員	2004.8	
国・地方公共団体	枚方市環境影響評価審査会	委員	2003.7	
国・地方公共団体	吹田市環境影響評価審査会	委員	2006.5	
国・地方公共団体	関西国際空港環境アセスメント委員会	委員	1995.1	
学 会	International Commission for Acoustics	理事・Secretary General	2004.4	
学 会	International Union of Psychological Science	理事	2004.8	
学 会	International Journal: Noise and Health	Editor	1998.8	
学 会	Acoustical Society of America	fellow	1996.5	
学 会	Congress Selection Committee of International Institute on Noise Control Engineering	委員	2004.8	
学 会	Technical Division 3 of International Institute on Noise Control Engineering	委員長	2005.8	
学 会	社団法人日本音響学会	理事	2003.5	
学 会	日本音楽知覚認知学会	理事	1994.11	
学 会	社団法人日本心理学会国際委員会	委員	2000.6	
学 会	日本人間工学会	評議員	1988.4	
学 会	社団法人日本騒音制御工学会	評議員	2004.5	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
紀要編集委員会	委員	2006.5	

担当授業科目
環境心理学
環境心理学演習
環境評価学演習
人間行動学実験実習Ⅰ
人間行動学実験実習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
環境心理学特講Ⅰ
環境心理学特定演習Ⅰ
環境心理学特定演習Ⅱ
環境心理学特定研究Ⅰ
環境心理学特定研究Ⅱ
環境心理学特別演習Ⅰ
環境心理学特別演習Ⅱ
環境心理学特別研究Ⅰ
環境心理学特別研究Ⅱ
環境デザイン学特論
環境デザイン学特論演習
環境音響学
環境評価論
心理学実験

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文（査読論文）	Quality of door sounds of passenger cars	S. Kuwano, H. Fastl, S. Namba, S. Nakamura and H. Uchida	2006	Acoustical Science and Technology
学術論文（査読論文）	A questionnaire survey on the effect of the sound of dental drills on the feeling of patients in dental clinics	T. Yamada, S. Ebisu and S. Kuwano	2006	Acoustical Science and Technology
学術論文	音の大きさの記憶に関する一実験−連続判断中に生起した特定音源のおおきさの記憶による実験−	加藤徹，桑野園子，難波精一郎，津田智行	2006	追手門学院大学紀要,
学術論文（総論）	騒音評価における実験室実験および社会調査の問題点	難波精一郎，桑野園子	2006	騒音制御,
委員会報告	音環境に関する調査票改訂版の提案	難波精一郎，桑野園子，他８名	2006	日本音響学会誌,
会議報告（招待講演）	Perception and memory of loudness of various sounds	S. Kuwano, S. Namba and T. Kato	2006.12	Proceedings of International Congress on Noise Control Engineering

会議報告 (招待講演)	Community responses to noise from road vehicles equipped with illegal mufflers	M. Tanaka, T. Fujikawa, Y. Oshino, S. Kuwano	2006.12	Proceedings of International Congress on Noise Control Engineering
会議報告	Psychological evaluation of the sound of dental drills	T. Yamada, S. Kuwano and S. Ebisu	2006.12	Proceedings of International Congress on Noise Control Engineering
会議報告	The relationships between willingness to pay and sound level of traffic noises	M. Morinaga, T. Matsui, S. Aono and S. Kuwano	2006.12	Proceedings of International Congress on Noise Control Engineering
会議報告	Audio-visual interaction in the image evaluation of the environment - an on-site investigation	M. Fujiwara, S. Aono and S. Kuwano	2006.12	Proceedings of International Congress on Noise Control Engineering
会議報告	For advancing noise problem solving ontology – aiming for comprehensive sound environmental management-	T. Tsuda, S. Aono, S. Kuwano, T. Matsui and M. Morinaga	2006.12	Proceedings of International Congress on Noise Control Engineering
会議報告 (招待講演)	Design of sound environmental in urban parks	M. Morinaga, S. Kuwano and S. Aono	2006.10	九大ＣＯＥ国際シンポジウム
会議報告 (招待講演)	視覚情報と聴覚情報のマッチング　–実験と調査	難波精一郎，桑野園子	2006.5	日本音楽知覚認知学会研究発表会資料
会議報告	連続判断中に正規した特定音源の大きさの記憶による判断	加藤徹，桑野園子，難波精一郎，津田智行	2006.9	日本音響学会秋季研究発表会講演論文集
会議報告	リズムの第１拍と時間的遅れを伴った光信号との同期	市丸朋史，桑野園子，難波精一郎	2006.9	日本音響学会秋季研究発表会講演論文集
会議報告	音刺激の持続時間・判断時点の変化と主観的評価	難波精一郎，桑野園子，加藤徹	2006.9	日本騒音制御工学会秋季研究発表会講演論文集
会議報告 (招待講演)	文化と騒音	桑野園子	2006.11	日本心理学会ワークショップ
会議報告	音信号，光信号とリズムの第１拍との同期判断、および信号が非同期の時の動作による補正について”，日本音楽知覚認知学会	難波精一郎，桑野園子，市丸朋史	2006.11	日本音楽知覚認知学会研究発表会資料
会議報告	地域の音環境を切り口としたまちづくりに関する研究～出雲街道新庄宿のまちづくりを対象として～	岩切翔，青野正二，桑野園子	2006.12	日本音響学会関西支部若手研究者研究交流会
会議報告	音環境に係る「要素」とそれに対する「働きかけ」の明示－データマイニング法を適用して－	津田智行、青野正二、桑野園子、松井孝典、森長誠	2006.12	日本音響学会関西支部若手研究者研究交流会
会議報告	音と映像が生活環境の印象評価に与える影響－現場実験に基づいた検討－	藤原舞、青野正二、桑野園子	2006.12	日本音響学会関西支部若手研究者研究交流会

会議報告	Overall loudness versus average of instantaneous udness for excerpts of music: Effects of musical style	Klaus Laumann, Hugo Fastl, Sonoko Kuwano and Seiichiro Namba	2007.3	ドイツ音響学会講演論文集
会議報告	ラウドネスの critical duration と等価騒音レベル・単発騒音暴露レベルとの関係　－道路交通騒音の場合	難波精一郎、桑野園子	2007.3	日本音響学会春季研究発表会講演論文集
会議報告	ラウドネスの critical duration と等価騒音レベル・単発騒音暴露レベルとの関係　－衝撃音の場合	桑野園子、Hugo Fastl, 難波精一郎	2007.3	日本音響学会春季研究発表会講演論文集
会議報告	歯科ドリル音の音質評価と音響特性に関する研究	山田朋美、桑野園子、恵比寿繁之	2007.3	日本音響学会春季研究発表会講演論文集
会議報告	生活環境の印象評価における視聴覚相互作用に関する研究　－現場実験と実験室実験による検討－	藤原舞，青野正二，桑野園子	2007.3	日本音響学会春季研究発表会講演論文集
会議報告	地域の音環境を切り口としたまちづくりに関する研究	岩切翔，青野正二，桑野園子	2007.3	日本音響学会春季研究発表会講演論文集
会議報告	データマイニング”法を用いた音環境知の分析と構築－緩和と適応の視点から－	津田智行，松井孝典，青野正二，桑野園子，森長誠	2007.3	日本音響学会春季研究発表会講演論文集

行動学系　青野　正二

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		3	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
博士後期課程		1	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
研究生		0	人			
学部生		1	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
国・地方公共団体	岸和田市	環境保全審議会委員	2004.8	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
環境心理学
環境心理学演習
環境心理学特講Ⅰ
環境心理学特定演習Ⅰ（前期課程）
環境心理学特定演習Ⅱ（前期課程）
環境心理学特定研究Ⅰ（前期課程）
環境心理学特定研究Ⅱ（前期課程）
環境評価学演習
環境評価論
心理学実験
人間行動学実験実習 Ⅰ
環境工学基礎演習Ⅰ
環境工学基礎演習Ⅱ

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
解説・総説	実験・調査データの統計処理における問題点	青野正二	2006.12	日本騒音制御工学会

行動学系　南　徹弘

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	35	%
社会貢献	25	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		3	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生　0　人
博士後期課程		2	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生　0　人
研究生		0	人			
学部生		11	人			
学位申請者		1	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	専門別代議員（第1部門）	2002.8	現在
学会	日本発達心理学会	理事	1997.4	現在
学会	日本動物心理学会	理事	1997.4	現在
社会福祉法人	都島友の会	理事・評議員	2001.8	現在
財団法人	千里ライフサイエンス振興財団	評議員	1998.6	現在
財団法人	日本モンキーセンター	評議員	2002.6	現在
財団法人	阪大微生物病研究会	治験審査委員会委員	2001.4	現在
財団法人	大学基準協会	判定委員会委員	2003.5	2006.3
独立行政法人	日本学術振興会	科研費委員会専門委員	2003.1	現在
学校法人	神戸女学院	評議員	2005.4	現在

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
施設マネジメント委員会	委員	2004.4	現在

担当授業科目
心理・行動科学入門（共通教育）
比較行動発達学
比較心理学
霊長類行動学演習（学部）
比較行動発達学演習（学部）
行動生態学実験実習Ⅰ（学部）
行動生態学実験実習Ⅱ（学部）
行動生態学実験実習Ⅲ（学部）
卒業演習
卒業研究
比較発達心理学特定演習Ⅰ
比較発達心理学特定演習Ⅱ
比較発達心理学特定研究Ⅰ
比較発達心理学特定研究Ⅱ
比較発達心理学特別演習Ⅰ
比較発達心理学特別演習Ⅱ
比較発達心理学特別研究Ⅰ
比較発達心理学特別研究Ⅱ

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	幼稚園の屋内と屋外の遊び場面における幼児の仲間関係	廣瀬聡弥・志澤康弘・日野林俊彦・南　徹弘	2006. 4	心理学研究
学術論文	Development of eating behavior by Japanese toddlers in a nursery school: Relation to independent walking.	Koda, N., Tachibana, Y., Hirose, T., Yasuda, J., Hinobayashi, T., & Minami, M.	2006. 5.	*Perceptual and Motor Skills*
学術論文	屋内・屋外の自由遊び場面における 3 歳児と 5 歳児の遊び行動の比較	廣瀬聡弥・日野林俊彦・南　徹弘	2006. 11	日本心理学会 第 70 回大会
学術論文	幼稚園の屋内と屋外における遊び相手の選択要因	廣瀬聡弥・日野林俊彦・南　徹弘	2006. 3	日本発達心理学会 第 18 回大会
学術論文	きょうだい関係におよぼす母親の在・不在の影響	志澤康弘・安田　純・日野林俊彦・南　徹弘	2007.3	大阪大学大学院　人間科学研究科紀要

行動学系　　日野林　俊彦

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。
＜人数＞

博士前期課程		3人を3名の教員が指導	人			
	うち	社会人院生		人	留学生	人
博士後期課程		2名を3名の教員が指導	人			
	うち	社会人院生		人	留学生	人
研究生			人			
学部生		11	人			
学位申請者		1	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	代議員	2005. 7	
学会	関西心理学会	委員	2005. 4	
学会	日本性教育学会	理事	1984. 8	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
比較発達心理学特別研究Ⅰ
比較発達心理学特別研究Ⅱ
比較行動発達学
比較発達心理学特定研究Ⅰ
比較発達心理学特定研究Ⅱ
比較発達心理学特定演習Ⅰ
比較発達心理学特定演習Ⅱ
比較行動発達学演習
比較発達心理学特別演習Ⅰ
比較発達心理学特別演習Ⅱ
人間科学のフロンティア

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	Development of eating behavior by Japanese toddlers in a nursery school.	N.Koda,Y.Tachibana, T.Hirose, J.Yasuda,T.Hinobayashi,T.Minami	2006.6	Perceptual and Motor Skills, 103.
会議報告	Age at menarche of Japanese schoolgirls in February 2005.	T. HINOBAYASHI, S. AKAI, J. YASUDA, Y. SHIZAWA, K.YAMADA & T. MINAMI	2006.7	19TH Biennial Meeting of International Society for the Study of Behavioural Development
会議報告	発達加速現象の研究・その２０	日野林・赤井・安田・志澤・山田・南・糸魚川	2006.9	日本心理学会第70回大会
会議報告	思春期女子の将来への関心と初潮	日野林・安田・志澤・南・糸魚川	2007.3	日本発達心理学会第18回大会
学術論文	きょうだい関係におよぼす母親の在・不在の影響	志澤・安田・日野林・南	印刷中	大阪大学大学院人間科学研究科紀要 32 巻
学術論文	屋内・屋外の自由遊び場面における３歳児と５歳児の遊び行動の比較	廣瀬・日野林　・南	印刷中	大阪大学大学院人間科学研究科紀要 32 巻
学術論文	幼稚園の屋内と屋外の遊び場面における幼児の仲間関係	廣瀬・志澤・日野林・南	2006.4	心理学研究, 77

行動学系　志澤 康弘

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	30	%
社会貢献	30	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程			人			
	うち	社会人院生		人	留学生	人
博士後期課程			人			
	うち	社会人院生		人	留学生	人
研究生			人			
学部生			人			
学位申請者			人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本霊長類学会大会	日本霊長類学会大会実行委員長		

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	きょうだい関係におよぼす母親の在・不在の影響	志澤康弘・安田純・日野林俊彦・南　徹弘	2007年3月印刷中	大阪大学大学院　人間科学研究科紀要
学術論文	幼稚園の屋内と屋外の遊び場面における幼児の仲間関係	廣瀬聡弥・志澤康弘・日野林俊彦・南　徹弘	2006年4月	心理学研究
会議報告	Age at menarche of Japanese schoolgirls in February 2005	Hinobayashi T., Akai S., Yasuda J., Shizawa Y.,Yamada K., Minami T.	2006年6月	19th Biennial Meeting of the International Society for Study of the Behavioural Development
会議報告	発達加速現象の研究・その19	日野林俊彦・赤井誠生・安田　純・志澤康弘・山田一憲・南　徹弘・糸魚川直祐	2006年11月	日本心理学会第70回大会発表論文集
会議報告	2歳齢保育園児は他児の視線を追従するか	岸本　健・志澤康弘・安田　純・日野林俊彦・南　徹弘	2006年11月	日本心理学会第70回大会発表論文集
会議報告	食事場面における乳児の泣き声に対する母親の反応	志澤康弘・伊藤美保・日野林俊彦・南　徹弘	2006年11月	日本心理学会第70回大会発表論文集
会議報告	食事場面における母親の注意喚起行動と子どもの行動との関連	伊藤美保・志澤康弘・安田　純・日野林俊彦・南　徹弘	2006年11月	日本心理学会第70回大会発表論文集
会議報告	きょうだい関係におよぼす母親の在・不在の影響	志澤康弘　安田純　日野林俊彦　南　徹弘	2007年3月	第18回　日本発達心理学会発表論文集
会議報告	Audience effect in infants' pointing gestures.	岸本健・志澤康弘・日野林俊彦・南　徹弘	2006年6月	The 15th Biennial International Conference on Infant Studies (on CD-ROM)
会議報告	Communicative intentionality in infants' pointing gestures	岸本健・志澤康弘・日野林俊彦・南　徹弘	2006年7月	The 19th Biennial Meeting of the International Society for the Study of Behavioural Development (on CD-ROM)
会議報告	Gaze following and pointing gestures in 2-year-old peers.	岸本健・志澤康弘・日野林俊彦・南　徹弘	2006年9月	The 4th International Workshop for Young Psychologists on Evolution and Development of Cognition
会議報告	指さしか発声か？養育者から言語的応答を引き出す要因	岸本健・志澤康弘・日野林俊彦・南　徹弘	2007年3月	第18回　日本発達心理学会発表論文集

行動学系　山本 隆

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	30	%
社会貢献	20	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。
＜人数＞

博士前期課程　2 人
　うち　社会人院生　0 人　留学生 0 人
博士後期課程　1 人
　うち　社会人院生　0 人　留学生 0 人
研究生　　人
学部生　8 人　8 人の学部生を 3 人の教員が指導
学位申請者　1 人

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本官能評価学会	理事	2002.1	
学会	日本味と匂学会			
学会	日本咀嚼学会	評議員	2000.1	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
超高圧電子顕微鏡センター運営委員会	委員	2002.4	

担当授業科目
行動生理学特講 I
行動生理学特講 II
行動生理学特定演習 I
行動生理学特定演習 II
行動生理学特定研究 I
行動生理学特定研究 II
行動生理学特別演習 I
行動生理学特別演習 II
行動生理学特別研究 I
行動生理学特別研究 II
認知神経科学演習
脳行動学演習
行動生態学実験実習 I
行動生態学実験実習 II
行動生態学実験実習 III
卒業演習
卒業研究

【5】2006(平成18)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
一般著書	おいしさを感じる脳の仕組みと味覚異常の注意点 高齢者の食生活を考える	山本　隆	2006.1	(財)日本食肉消費総合センター
一般著書	味わう脳	山本　隆	2006.4	読売新聞大阪本社
一般著書	味覚の生理学	山本　隆	2006.9	光生館
一般著書	好き嫌いの生理学	山本　隆	2006.12	ドメス出版
学術論文	Neurochemical modulation of ingestive behavior in the ventral pallidum.	T. Shimura, H. Imaoka and T. Yamamoto	2006.3	Eur. J. Neurosci.
学術論文	Acute suppression, but not chronic genetic deficiency, of c-*fos* gene expression impairs ong-term memory in aversive taste learning.	Y. Yasoshima, N. Sako, E. Senba and T. Yamamoto	2006.5	Proc. Natl. Acad. Sci., USA
学術論文	Memory-dependent c-fos expression in the nucleus accumbens and extended amygdala following the expression of conditioned taste aversive behavior in the rat.	Y. Yasoshima, T. Scott and T. Yamamoto	2006.5	Neuroscience
学術論文	Effects of brain lesions on taste-potentiated odor aversion in rats.	T. Inui, T. Shimura and T. Yamamoto	2006.6	Behav. Neurosci.
学術論文	Involvement of specific orexigenic neuropeptides in sweetener-induced overconsumption in rats.	Y. Furudono, C. Ando, C. Yamamoto, M. Kobashi and T. Yamamoto	2006.10	Behav. Brain Res.
学術論文	Cortical representation of taste modifying action of miracle fruit in humans.	C. Yamamoto, H. Nagai, K. Takahashi, S. Nakagawa, M. Yamaguchi, M. Tonoike and T. Yamamoto	2006.12	Neuroimage
会議報告	The role of GABAergic system in the ventral pallidum on the retrieval of conditioned taste aversion in rats.	T. Inui, T. Shimura and T. Yamamoto	2006.3	J. Physiol. Sci.
会議報告	Mesolimbic neuronal activities related to ingestion of taste solutions in freely behaving rats.	T. Shimura, Y. Okazaki and T. Yamamoto	2006.3	J. Physiol. Sci.
会議報告	咀嚼・嚥下とおいしさの生理学	山本　隆	2006.5	第 17 回 食品ハイドロコロイドシンポジウム
会議報告	Taste modifying action of miracle fruit in humans as seen by magnetoencephalography.	T. Yamamoto, C. Yamamoto, H. Nagai, K. Takahashi, S. Nakagawa, M.Yamaguchi and M. tonoike	2006.7	The 4th International Symposium on Molecular and Neural Mechanisms of Taste and Olfactory Perception
会議報告	味の情動、学習、記憶、嗜好性発現の研究	山本　隆	2006.7	日本味と匂学会誌
会議報告	味覚嫌悪学習における c-fos 遺伝子発現の役割	山本　隆、八十島安伸、硲　哲崇、仙波　恵美子	2006.7	日本味と匂学会誌

会議報告	味溶液摂取行動時の中脳辺縁系および扁桃体のニューロン活動	志村　剛、山本　隆	2006.7	日本味と匂学会誌
会議報告	味覚嫌悪学習の想起過程におけるラット腹側淡蒼球 GABA 系の関与	乾　賢、志村　剛、山本　隆	2006.7	日本味と匂学会誌
会議報告	血中サイトカイン物質に及ぼす味覚の影響	山本　千珠子、山本　隆	2006.7	日本味と匂学会誌
会議報告	ラットの味溶液摂取におけるセロトニンの関与	松岡　藍、山本　千珠子、乾　賢、竹村　元秀、山本　隆	2006.7	日本味と匂学会誌
会議報告	ラット腹側淡蒼球の GABAA 受容体は味覚嫌悪学習の想起に関与する	乾　賢、志村　剛、山本　隆	2006.7	Neurosci. Res.
会議報告	味覚嫌悪学習の獲得と保持に対する最初期遺伝子 c-*fos* 発現阻害の効果	山本　隆、八十島　安伸、硲　哲崇、仙波恵美子	2006.7	Neurosci. Res.
会議報告	味覚嫌悪学習の想起過程におけるラット腹側淡蒼球の関与	乾　賢、志村　剛、山本　隆	2006.9	日本生理学会誌
会議報告	The GABAergic system in the ventral pallidum is involved in the retrieval of conditioned taste aversion in rats.	T. Inui, T. Shimura and T. Yamamoto	2006.9	European Chemoreception Organization
会議報告	おいしさから過食に至る脳機序	山本　隆	2006.9	J. Oral Biosciences
会議報告	Magnetonecephalalographic analysis of the human brain to visual stimulation of objects with matched and mismatched colors.	C. Yamamoto, A. Yonamine, S. Iwaki, T. Yamamoto	2006.10	Society for Neuroscience
総説論文	おいしく味わう脳のしくみ−おいしさを伝え、やみつきにさせる脳の不思議−	山本　隆	2006.4	食の科学
総説論文	味覚の不思議に迫る	山本　隆	2006.4	フードリサーチ
総説論文	なぜ食べ物に好き嫌いがあるのか？	山本　隆	2006.5	言語
総説論文	味の認知と情動の脳機構	山本　隆	2006.4	脳 21
総説論文	食べ物に対する「慣れと」「飽き」のメカニズム	山本　隆	2006.5	アクアネット
総説論文	おいしさのしくみと健康	山本　隆	2006.6	日本食品新素材研究会誌
総説論文	おいしさの脳科学	山本　隆	2006.7	食品と開発
総説論文	The Sweet Side of Japanese Cuisine.	T. Yamamoto	2006.7	Food Forum
総説論文	おいしさの生理学	山本　隆	2006.8	おいしさの科学
総説論文	おいしいとなぜ食べすぎてしまうのか？ ― 脳内報酬系の働き ―	山本　隆	2006.8	日本味と匂学会誌
総説論文	Focus on Japanese Cuisine: Saltiness	T. Yamamoto	2006.10	Food Forum
総説論文	科学で解き明かす味覚の秘密 ―「おいしさ」、「まずさ」を感じさせる物質とは？	山本　隆	2006.11	化学
総説論文	おいしさの科学版　味の辞典 1.基本味はどのように決められたのか？　その定義は？ 2.塩の代替品はあるか？	山本　隆	2006.11	おいしさの科学
総説論文	どうして美味しいと食べ過ぎてしまうのだろうか？	山本　隆	2006.12	Dental Diamond
総説論文	Neural substrates for the processing of cognitive and affective aspects of taste in the brain.	T. Yamamoto	2006.12	Archives of Histology and Cytology
総説論文	Acid-sensing ion channels in taste buds.	S. Shimada, T. Ueda, Y. Ishida, T. Yamamoto and S. Ugawa	2006.12	Archives of Histology and Cytology

行動学系　志村 剛

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	60	%
教育	30	%
社会貢献	2	%
学内運営	8	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		2	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
博士後期課程		1	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
研究生		0	人			
学部生		9	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
遺伝子組換え実験安全委員会			

担当授業科目
行動生理学特定演習Ⅰ
行動生理学特定演習Ⅱ
行動生理学特別演習Ⅰ
行動生理学特別演習Ⅱ
行動生理学特講Ⅰ
行動生理学特定研究Ⅰ
行動生理学特定研究Ⅱ
行動生理学特別研究Ⅰ
行動生理学特別研究Ⅱ
脳行動学演習
認知神経科学演習
行動生態学実験実習Ⅰ
行動生態学実験実習Ⅱ
行動生態学実験実習Ⅲ
脳と行動

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書（分担執筆）	新・行動と脳／性行動と脳	志村　剛	2006.12	大阪大学出版会
学術論文	Effects of brain lesions on taste-potentiated odor aversion in rats.	Inui T, Shimura T, Yamamoto T	2006.6	Behavioral Neuroscience
学術論文	Involvement of forebrain in parabrachial neuronal activation induced by aversively conditioned taste stimuli in the rat.	Tokita K, Shimura T, Nakamura S, Inoue T, Yamamoto T	2007.1	Brain Research
学術論文	味覚嫌悪学習の想起過程におけるラット腹側淡蒼球 GABA 系の関与	乾　賢，志村　剛，山本　隆	2006.12	日本味と匂学会誌
学術論文	味溶液摂取行動時の中脳辺縁系および扁桃体のニューロン活動	志村　剛，山本　隆	2006.12	日本味と匂学会誌

行動学系　乾 賢

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	60	%
教育	30	%
社会貢献	0	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。
＜人数＞

博士前期課程		2 人			
	うち	社会人院生	人	留学生	人
博士後期課程		人			
	うち	社会人院生	人	留学生	人
研究生		人			
学部生		8 人			
学位申請者		人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
行動生態学実験実習Ⅰ
行動生態学実験実習Ⅱ
行動生態学実験実習Ⅲ

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	Effects of brain lesions on taste-potentiated odor aversion in rats.	Inui, T., Shimura, T., and Yamamoto, T.	2006.3	Behavioral Neuroscience
学術論文	The role of the ventral pallidum GABAergic system in conditioned taste aversion: effects of microinjections of GABAA receptors antagonist on taste palatability of conditioned stimulus.	Inui, T., Shimura, T., and Yamamoto, T.	投稿中	Brain Research
学術論文	味覚嫌悪学習の想起過程におけるラット腹側淡蒼球 GABA 系の関与	乾賢、志村剛、山本隆	2006.12	日本味と匂学会誌
学術論文	ラットの味溶液摂取におけるセロトニンの関与	松岡藍、山本千珠子、乾賢、竹村元秀、山本隆	2006.12	日本味と匂学会誌

行動学系　足立 浩平

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	35	%
社会貢献	10	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		5	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
博士後期課程		0	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
研究生		0	人			
学部生		6	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本行動計量学会	理事	2006.4	
学会	日本行動計量学会学会誌「Behaviormetrika」	編集副委員長	2006.4	
学会	日本計算機統計学会和文誌「計算機統計学」	編集委員	2005.4	
学会	日本心理学会	地域別議員	2003.4	
学会	日本心理学会学会誌「Japanese Psychological Research」および「心理学研究」	編集委員	2005.11	
学会	日本教育心理学会学会誌「教育心理学研究」	編集委員	2004.4	2006.12
学会	International Meeting of Psychometric Society 2007 実行委員会	委員	2005.2	
学会	2007 年度日本統計関連学会連合大会	企画委員	2006.10	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
人間科学部サイバーメディア室	室長	2005.4	

担当授業科目
統計学 A-Ⅱ
行動計量学
行動計量学演習Ⅰ
行動計量学演習Ⅱ
行動生態学実験実習 II
行動生態学実験実習 III
多変量解析論
行動データ科学特講Ⅰ
行動データ科学特定演習Ⅰ
行動データ科学特定演習Ⅱ
行動データ科学特定研究Ⅰ
行動データ科学特定研究Ⅱ

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書	多変量データ解析法 ―心理・教育・社会系のための入門 ―	足立浩平	2006.7	ナカニシヤ出版
著書	心理学総合辞典 (海保博之・楠見 孝 監修), 48-63 頁, 3.4 節 心理データ解析	足立浩平	2006.6	朝倉書店
著書	教育評価事典 (辰野千壽・石田恒好・北尾倫彦　監修), 150-152 頁	足立浩平	2006.6	図書文化
論文	Perceived size and perceived distance of targets viewed from between the legs: Evidence for proprioceptive theory	Higashiyama, A., & Adachi, K.	2006.9	Vision Research, 46: 3961-3976
その他	Joint Procrustes analysis for transforming principal components obtained from three-way data	Adachi, K.	2006.8	17th Symposium of IASC on Computational Statistics: Book of Abstracts: 3

行動学系　宮本 友介

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	35	%
社会貢献	10	%
学内運営	35	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞　（2 人の教員が指導にあたった.）

博士前期課程		5	人			
	うち	社会人院生		人	留学生	人
博士後期課程		0	人			
	うち	社会人院生		人	留学生	人
研究生		0	人			
学部生		6	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
人間科学研究科サイバーメディア室	副室長	2003.6	
大阪大学情報ネットワークシステム委員会	委員	2003.9	
大阪大学情報システム小委員会	委員	2003.9	

担当授業科目
情報活用基礎
行動生態学実験実習Ⅰ
行動生態学実験実習Ⅱ
行動生態学実験実習Ⅲ
心理学実験
心理学測定

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
会議報告	Life Pattern I: Statistical analysis techniques for life-pattern extraction	MIYAMOTO, Y., KAWASAKI, T. & Yagi, R.	2006.7	26th International Congress of Applied Psychology
会議報告	独立成分分析によるライフパタンの抽出	宮本 友介	2006.9	日本行動計量学会第34回大会発表抄録集
会議報告	文系学部を対象としたリテラシー科目におけるプログラミング教育 ―PEN を用いた実践例―	宮本友介・原田章・安留誠吾・中西通雄・西田知博	2006.11	平成 18 年度 情報教育研究集会 発表論文集

行動学系　熊倉 博雄

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	35	%
社会貢献	0	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。
＜人数＞

博士前期課程		1	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
博士後期課程		1	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
研究生		0	人			
学部生		3	人			
学位申請者			人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本人類学会	Anthropological Science(Japanese Series) 編集委員	2005.2	
学会	日本人類学会	Anthropological Science, Editorial Board	2004.2	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
教育研究評議会	委員	2006.4	2009.3
生命科学・生命工学企画推進室	室員		
動物実験委員会	委員		
超高圧電子顕微鏡センター運営委員会	委員		

担当授業科目
行動形態学特定演習Ⅰ
行動形態学特定演習Ⅰ
行動形態学特別演習Ⅱ
行動形態学特別演習Ⅱ
行動形態学特講Ⅱ
行動形態学特定研究Ⅰ
行動形態学特定研究Ⅱ
行動形態学特別研究Ⅰ
行動形態学特別研究Ⅱ
行動生態学実験実習 II
行動生態学実験実習 III
行動生態学実験実習 I
人間科学概論 I(行動の科学)
行動形態学
行動形態学演習
生物人類学
生物人類学演習
卒業演習
卒業研究

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書(分担)	新・行動と脳	熊倉博雄	2006.12	大阪大学出版会
学術論文	形態科学 9(2)/原猿の膝関節可動域について	吉田有希、熊倉博雄	2006.6	人類形態科学研究会
学術論文	Cells Tissues Organs 184(2) /Density of Muscle spindles in prosimian shoukder muscles reflects locomotor adaptation. (	Higurashi Y, Taniguchi Y, Kumakura H	In press	Karger,Basel

行動学系　　中野　良彦

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		2人の院生を3人の教員が指導			
	うち	社会人院生	人	留学生	人
博士後期課程		0 人			
	うち	社会人院生	人	留学生	人
研究生		0 人			
学部生		4 人の学部生を3人の教員が指導			
学位申請者		0 人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本人類学会	評議員	1995.11	
学会	日本人類学会キネシオロジー分科会	幹事	1989.11	
学会	日本人類学会進化人類学分科会	幹事	2001.11	
学会	日本人類学会ヘルスサイエンス分科会	幹事	2002.11	
学会	日本霊長類学会	評議員	2001.6	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
生物人類学演習
人類適応学演習
生物人類学（Ⅳセメスター）
生物人類学（Ⅴセメスター）
行動生態学実験実習Ⅰ
行動生態学実験実習Ⅱ
行動生態学実験実習Ⅲ
行動形態学特定演習Ⅰ
行動形態学特定演習Ⅱ
行動形態学特別演習Ⅰ
行動形態学特別演習Ⅱ
行動形態学特講Ⅰ
行動形態学特講Ⅱ
行動形態学特定研究Ⅰ
行動形態学特定研究Ⅱ
行動形態学特別研究Ⅰ
行動形態学特別研究Ⅱ
人間科学フィールド演習

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	Computerized restoration of nonhomogeneous deformation of a fossil cranium based on bilateral symmetry	Ogihara, N., Nakatsukasa, M., Nakano, Y., Ishida, H.	2006.5	American Journal of Physical Anthropology
学術論文	マカク属の寛骨形態の性差	松浦由観・中野良彦	2006.6	霊長類研究

行動学系　平崎　鋭矢

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		0	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
博士後期課程		0	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
研究生		0	人			
学部生		0	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本人類学会	評議員	2004.4	
学会	日本人類学会 キネシオロジー分科会	幹事	2002.1	
親交会	人間科学研究科親交会	幹事	2006.4	2007.3
学外講義	大阪外国語大学	非常勤講師	1998.10	2007.3
学外講義	武庫川女子大学	非常勤講師	1999.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
行動生態学実験実習Ⅰ
行動生態学実験実習Ⅱ
行動生態学実験実習Ⅲ
卒業演習
心理学実験（分担）

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	Primates trained for bipedal locomotion as a model for studying the evolution of bipedal locomotion. (in Human Origins and Environ-mental Backgrounds. Ishida et al, ed.)	Hirasaki E, Ogihara N, Nakatsukasa M.	2006.3	Springer
学術論文	ニホンザルの二足歩行訓練効果　～キネマティクスと足圧分布からみて～.	平崎鋭矢，中務真人，荻原直道	2006.10	電子情報通信学会技術研究報告（電子情報通信学会）
学術論文	Energy expenditure of bipedal walking is higher than that of quadrupedal walking in Japanese macaques.	Nakatsukasa M, Hirasaki E, Ogihara N.	2006	American Journal of Physical Anthropology (Wiley-Liss)
学術論文	Locomotor energetics in nonhuman primates: a review of recent studies on bipedal performing macaques. (in Human Origins and Environ- mental Backgrounds. Ishida et al, ed.)	Nakatsukasa M, Hirasaki E, Ogihara N.	2006.3	Springer
学術論文	Patterns of vertical climbing in primates. (in Human Origins and Environmental Backgrounds. Ishida et al, ed.)	Nakano Y, Hirasaki E, Kumakura H	2006.3	Springer

行動学系　　中村　敏枝

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	60	%
社会貢献	5	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		4	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
博士後期課程		5	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	1	人
研究生		1	人			
学部生		11	人			
学位申請者（博士）		1	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	ヒューマンインタフェース学会	理事	2005	至現在
学会	日本認知心理学会編集委員会	委員	2003	至現在
学会	日本人間工学会	評議員	1983	至現在
学会	日本人間工学会関西支部	評議員	1970？	至現在
学会	電子情報通信学会編集委員会	査読委員	2001？	至現在
	豊中市行財政改革推進市民会議	委員	2001	至現在
	豊中市行財政改革推進市民会議	専門委員	2001	至現在

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
セクシャルハラスメント全学相談員	相談員	2001	至現在

担当授業科目
感性情報心理学特講 I
感性情報心理学特講 II
感性情報心理学特定演習 I 感性情報心理学特定演習 II
感性情報心理学特定研究 I
感性情報心理学特定研究 II
感性情報心理学特別演習 I
感性情報心理学特別演習 II
感性情報心理学特別研究 I
感性情報心理学特別研究 II
行動生態学フィールドワーク実習 I、II
行動生態学フィールドワーク特別実習 I、II
卒業演習・卒業研究
行動生態学実験実習 I、II、III
感性情報行動学演習 I
感性情報行動学演習 II
感性情報行動学
感性の心理学
心理・行動科学入門
音楽心理学

【5】2006(平成18)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	音声対話における反応潜時の同調傾向が目標達成の評価に及ぼす影響	小森政嗣、長岡千賀、中村敏枝	2006.7	日本感性工学会研究論文集,vol.6,91-98
学術論文	演奏の手がかりとしての非言語行動	河瀬諭, 中村敏枝ほか	2006.9	ヒューマンインターフェースシンポジウム 2006 論文集, 689-694
学術論文	2者による電子ドラム打叩の等間隔同期課題における身体動作の分析	片平建史, 中村敏枝ほか	2006.9	ヒューマンインターフェースシンポジウム 2006 論文集, 299-302
学術論文	音楽聴取による感動の心理学的研究－聴取者の情動および演奏音の音響的特性との関係－	安田晶子, 中村敏枝ほか	2006.9	ヒューマンインターフェースシンポジウム 2006 論文集, 1205-1210
学術論文	2者のバイオリン演奏における身体動作の分析	小幡哲史, 中村敏枝ほか	2006.9	ヒューマンインターフェースシンポジウム 2006 論文集, 879-882
学術論文	BGM のマスキング効果-飲食店映像呈示による実験室的検討	堀中康行, 中村敏枝ほか	2006.9	ヒューマンインターフェースシンポジウム 2006 論文集, 867-870

行動学系　増本 康平

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	25	%
社会貢献	5	%
学内運営	35	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		1	人			
	うち	社会人院生		人	留学生	人
博士後期課程			人			
	うち	社会人院生		人	留学生	人
研究生			人			
学部生		2	人			
学位申請者		2	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術雑誌	Reactivation of physical motor information in the memory of action events	Masumoto, K., Yamaguchi, M., Sutani, K., Tuneto, S., Fujita, A., & Tonoike, M.	2006.6	Brain Research, 1101, 102-109.
学術雑誌	日常生活における高齢者の展望的記憶に関する研究	増本康平・林知世・藤田綾子	2007.2	老年精神医学雑誌
学術雑誌	実際の身体能力と身体能力の自己評価の関係に関する研究　-高齢者と若年者のまたぎ能力比較-	荒井龍淳・中原純・中里和弘・増本康平・藤田綾子	2006.12	生老病死の行動科学, 11, 43-52.
学術雑誌	大学生の特性不安と単語刺激の評価が注意バイアスと顕在的記憶に及ぼす影響	上野大介・増本康平・久保尚子・平井啓	2006.12	生老病死の行動科学, 11, 31-42.
会議報告 口頭発表	日常生活における高齢者の展望的記憶に関する研究;「し忘れ」に影響する要因の検討	増本康平・林知世・藤田綾子	2006.6	第 48 回日本老年社会科学会大会
会議報告 口頭発表	身体能力認知と心理的要因の関係に関する研究　ー高齢者と若年者の「またぎ」能力の比較ー	荒井龍淳・増本康平・藤田綾子	2006.6	第 48 回日本老年社会科学会大会
会議報告 口頭発表	皮質基底核変性症患者における実演効果	増本康平・白川雅之・菊川桂樹・井上貴美子・友田洋二・横山和正	2006.9	第 30 会日本神経心理学会
会議報告 小講演	エピソード記憶と運動行為に関する認知神経心理学的研究　-行為を伴うと記憶が高まるのはなぜか？-	増本康平・藤田綾子	2006.11	第 70 回日本心理学会
会議報告 ポスター発表	健忘症患者の介護者の心理的負担(4)ー健忘症状に対する認識の違いが介護者の抑うつ・不安に与える影響についてー	白川雅之・増本康平	2006.11	第 70 回日本心理学会

社会学系　友枝 敏雄

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	20	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		5	人			
	うち	社会人院生		1	人	留学生	0 人
博士後期課程		1	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	0 人
研究生		0	人			
学部生		6	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
国	日本学術会議	連携会員	2006. 8	在任
国	日本学術振興会	特別研究員等審査委員会委員及び国際事業委員会書面審査委員	2004. 8	2006. 7
地方公共団体	福岡地区水道事業団情報公開審査会	委員長	2004. 4	在任
国立大学法人	東北大学大学院文学研究科	外部評価委員	2006. 9	2007.3
国立大学法人	お茶の水女子大学	部局別評価に係る外部評価委員	2006. 8	2007.3
学会	日本社会学会	理事	2003.11	2006.10
学会	西日本社会学会	評議員	2004. 5	2006. 5
学会	日本社会学理論学会	理事	2006. 9	在任
学会	日本社会学会	学会賞委員会委員	2006.11	在任
財団法人	芙蓉奨学会	評議員	2003. 6	在任

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
大学院入試運営委員会	委員	2006. 4	2007. 3
大学院人間科学研究科図書室	室長	2007. 1	在任

担当授業科目
社会学理論特定演習Ⅰ
社会学理論特定演習Ⅱ
社会学理論特定研究Ⅰ
社会学理論特定研究Ⅱ
社会学理論特別演習Ⅰ
社会学理論特別演習Ⅱ
社会学理論特別研究Ⅰ
社会学理論特別研究Ⅱ
社会環境学演習Ⅰ
社会環境学演習Ⅱ
社会環境学概論
社会変動論
社会変動論特講A
現代社会論
卒業演習
卒業研究

【5】2006(平成18)年度　著書･論文

分類(著書･学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
報告書	学生は大学統合に対してどのような認識を抱いているのか	丸野俊一・友枝敏雄 加藤和生・山口裕幸 奈田哲也・村川康子	2006. 5	『芸術工科大学と九州大学の統合による光と陰』(研究代表者：丸野俊一九州大学教授) pp.72- 100.

社会学系　太郎丸 博

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	40	%
社会貢献	20	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		8	人			
	うち	社会人院生		1	人	留学生	0	人
博士後期課程		4	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
研究生		1	人			
学部生		20	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	数理社会学会	編集理事（編集委員長）	2005.4	2007.3

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
社会学理論特定演習Ⅰ
社会学理論特定演習Ⅱ
社会学理論特定研究Ⅰ
社会学理論特定研究Ⅱ
社会学理論特別演習Ⅰ
社会学理論特別演習Ⅱ
社会学理論特別研究Ⅰ
社会学理論特別研究Ⅱ
社会環境学演習Ⅱ
社会環境学演習Ⅰ
社会環境学概論
社会環境学実験実習Ⅱ
人間科学概論Ⅱ
卒業演習
数理社会学特講
数理社会学
社会環境学実験実習Ⅲ
卒業研究

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
専門編著	フリーターとニートの社会学	太郎丸　博	2006.11	世界思想社
学術論文	Laudan の研究伝統論による社会学理論発展法の考察『社会学評論』57(1)： 41-57	太郎丸　博	2006.05	日本社会学会

社会学系　木前 利秋

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	45	%
教育	30	%
社会貢献	0	%
学内運営	25	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。
＜人数＞

博士前期課程		3	人			
	うち	社会人院生		人	留学生	人
博士後期課程		5	人			
	うち	社会人院生		2 人	留学生	人
研究生			人			
学部生			人			
学位申請者		2	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
適塾管理運営委員会	委員	平成 17 年 4 月	

担当授業科目
社会生態学
現代社会学
社会環境学演習Ⅱ
現代社会学特講
環境と社会特講
現代社会学特定演習Ⅰ（A）、現代社会学特定演習Ⅱ（B）
現代社会学特定研究Ⅰ、現代社会学特定研究Ⅱ

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	グローバル時代の人権とシティズンシップ	木前利秋	平成 18 年 12 月	大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文学」報告書
研究発表	Modernities, Globalization, Civil Society	Kimae Toshiaki	2006.11.	International Sociology Conference in East Asia (Pusan National University)

社会学系　川端 亮

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	45	%
教育	35	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		4	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
博士後期課程		5	人			
	うち	社会人院生		1	人	留学生	0	人
研究生		0	人			
学部生		30	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
宗教社会学
宗教社会学特講
文化と社会
社会環境学概論
人間科学のフロンティア
計量社会学
計量社会学特講
社会環境学実験実習 III
社会環境学実験実習 I
社会調査特定演習 I
社会調査特定演習 II
人間科学方法実習 I
人間科学方法実習 II
社会調査特別演習 I
社会調査特別演習 II
経験社会学特定研究 I
経験社会学特別研究 I
経験社会学特定研究 II

経験社会学特別研究Ⅱ
行動マクロ社会学特定研究Ⅰ
行動マクロ社会学特別研究Ⅰ
行動マクロ社会学特定研究Ⅱ
行動マクロ社会学特別研究Ⅱ
卒業演習
卒業研究

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書	『実践的研究のすすめ』／「研究をデザインする」	川端亮	2007年3月	有斐閣
著書	『宗教を理解すること』／「統計的手法による宗教理解の可能性」	川端亮・松谷満	2007年3月	創元社

社会学系　吉川 徹

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	40	%
社会貢献	15	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		7	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
博士後期課程		5	人			
	うち	社会人院生			人	留学生		人
研究生		0	人			
学部生		18	人			
学位申請者			人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
経験社会学
社会環境学実験実習Ⅱ
社会環境学実験実習Ⅲ
経験社会学特講
社会環境学演習Ⅰ
社会環境学演習Ⅱ
社会環境学概論
社会データ科学特定研究Ⅰ
社会データ科学特定研究Ⅱ
社会データ科学特別研究Ⅰ
社会データ科学特別研究Ⅱ
行動調査特定実習Ⅰ
行動調査特定実習Ⅱ
行動調査特別実習Ⅰ
行動調査特別実習Ⅱ
行動調査特定演習Ⅰ
行動調査特定演習Ⅱ
行動調査特別演習Ⅰ

行動調査特別演習Ⅱ
行動マクロデータ科学特定演習Ⅰ
行動マクロデータ科学特定演習Ⅱ
行動マクロデータ科学特別演習Ⅰ
行動マクロデータ科学特別演習Ⅱ
卒業研究
卒業演習

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書	『学歴と格差・不平等』	吉川徹	2006.9.	東京大学出版会
その他	「「パネルデータ」を考える」労研雑誌	大竹文雄・樋口美雄・吉川徹・永瀬伸子	2006.6.	日本労働研究機構

社会学系　牟田　和恵

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	50	%
社会貢献	10	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		6	人			
	うち	社会人院生		3	人	留学生	1	人
博士後期課程		8	人			
	うち	社会人院生		1	人	留学生	0	人
研究生		1	人			
学部生		15	人			
学位申請者		2	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
特になし				

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
アカデミック・ハラスメント特別小委員会（人権委員会）	委員	05.02	06.05

担当授業科目
社会環境学演習Ⅰ
社会環境学演習Ⅱ
家族社会学
コミュニケーション社会学特定研究Ⅰ
コミュニケーション社会学特定研究Ⅱ
コミュニケーション社会学特別研究Ⅰ
コミュニケーション社会学特別研究Ⅱ
コミュニケーション社会学特定演習Ⅰ
コミュニケーション社会学特定演習Ⅱ
コミュニケーション社会学特別演習Ⅰ
コミュニケーション社会学特別演習Ⅱ
女性学・男性学
基礎演習
人間科学概論（人間と社会）

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書	ジェンダー家族を超えて	牟田和恵	06.04	新曜社
学術論文	フェミニズムの歴史からみる社会運動の可能性―「男女共同参画」をめぐる状況を通しての一考察	牟田和恵	06.09	『社会学評論』57 巻 2 号（226 号）
講演録(翻訳)	Las mujeres japonesas en el siglo XX y mas alla, in Amelia Saiz Lopez (ed.),*Mujeres Asiatics Cambio Social y Modernidad*.	Muta Kazue	06.09	CIDOB, Barcelona
編著書	新版ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公雄・牟田和恵	06.11	世界思想社

社会学系　山中 浩司

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	35	%
社会貢献	10	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		4	人			
	うち	社会人院生		人	留学生	人
博士後期課程		6	人			
	うち	社会人院生		2 人	留学生	人
研究生			人			
学部生		18	人	（牟田教授と共同）		
学位申請者		1	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	特定非営利活動法人　公益セクター調査研究会	専門アドバイザー	05.07.01	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
共通教育実践センター　専門基礎科目委員会	委員	06.04.01	
共通教育実践センター　現代教養科目委員会	コーディネータ	06.07.01	
医学部保健学倫理委員会	委員	06.10.01	

担当授業科目
現代思想論
社会環境学演習 II
社会環境学演習 I
社会環境学実験実習 III
文化社会学
文化社会学特講
文化社会学特別演習 I
文化社会学特別演習 II
文化社会学特定演習 I
文化社会学特定演習 I
文化社会学特定研究 I
文化社会学特定研究 II
文化社会学特別研究 I
文化社会学特別研究 II
卒業演習
卒業研究

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書・編著	遺伝子研究と社会	山中浩司・額賀淑郎他	2007.2.28	昭和堂

社会学系　Scott NORTH

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	55	%
社会貢献	5	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		4	人			
	うち	社会人院生		1	人	留学生 3 人
博士後期課程			人			
	うち	社会人院生			人	留学生 人
研究生			人			
学部生		1	人			
学位申請者		2	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
留学生センター教授会	構成員	2004.7	
人科国際交流室会議	構成員	2003.9	
英語表記 WG	構成員	2004.1	
人科動物実験委員会	構成員	2006.5	
H.18 年度入学生クラス担任教員	担任教員	2006.4	

担当授業科目
グローバル社会学特定実習 I（前期課程）
グローバル社会学特定実習 II（前期課程）
グローバル社会学特定実習 I（後期課程）
グローバル社会学特定実習 II（後期課程）
基礎セミナー：参与観察入門
人間科学概論 II（男性学・女性学）
社会学理論特定研究 I 社会学理論特定研究 II
社会環境学演習 I
社会環境学実験自習 III
人間科学フィルド演習
比較社会学
比較社会学特講

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
書評	Feminism in Modern Japan	Scott NORTH	2006.3	H-Net Reviews
社説	The Return of Thought Crimes to Japan	Scott NORTH	2006.5	Asia Times
論文	働く：分業を手がかりに	スコット・ノース	2006.11	世界思想社
社説	All Work and No Pay in Japan	Scott NORTH	2007.1	Asia Times
論文	The End of Overtime Pay: More Production or Just More Work for Japan's White Collar Workers?	Scott NORTH	2007.1	Japan Focus

社会学系　山中　千恵

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	20	%
社会貢献	5	%
学内運営	55	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。
＜人数＞

博士前期課程　＿＿＿＿人
　うち　社会人院生　＿＿＿＿人　留学生　＿＿＿＿人
博士後期課程　＿＿＿＿人
　うち　社会人院生　＿＿＿＿人　留学生　＿＿＿＿人
研究生　＿＿＿＿人
学部生　＿＿＿＿人
学位申請者　＿＿＿＿人

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
「都市とメディア」

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
論文	『マンガ研究』第９号／「マンガを通じた国際交流への期待―モナシュ大学の事例から」	伊藤遊・山中千恵	2006 年 4 月	日本マンガ学会
著書	Domesiticating Manga National identity in Korean Comics culture" in Jaqueline Berndt&Steffi Richter, ed., *Reading Manga: Local and Global perception of Japanese Comics.*,	Chie Yamanaka	2006 年 6 月	Leipzig University Press
著書	『はだしのゲンのいた風景－マンガ・戦争・記憶』吉村和真・福間良明編／「読まれえない「体験」・越境できない「記憶」－韓国における『はだしのゲン』の受容をめぐってー」	山中千恵	2006 年 7 月	梓出版社
論文	『韓国朝鮮の文化と社会』第５号／「韓流を語ることの現在」	山中千恵	2006 年 11 月	風響社

人間学系　　中山　康雄

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		2	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生　0　人
博士後期課程		1	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生　0　人
研究生		0	人			
学部生		11	人	（4 教員で指導）		
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本科学哲学会	編集委員	1999. 4	
学会	日本科学哲学会	評議員	2003. 4	
学会	科学基礎論学会	評議員	2005. 4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
入試委員会	委員	2006.4.	

担当授業科目
科学方法論特講
科学基礎論特定演習 I （前期課程）
科学基礎論特定演習 II （前期課程）
科学基礎論特定研究 I
科学基礎論特定研究 II
認知と論理特講
論理科学特定演習 I （前期課程）
論理科学特定演習 II （前期課程）
論理科学特定研究 I
論理科学特定研究 II
科学基礎論特別演習 I （後期課程）
科学基礎論特別演習 II （後期課程）
科学基礎論特別研究 I
科学基礎論特別研究 II
論理科学特別演習 I （後期課程）
論理科学特別演習 II （後期課程）

論理科学特別研究 I
論理科学特別研究 II
科学方法論
認知科学
基礎人間科学演習 II
現代人間科学実験実習 I
基礎人間科学実験実習 II
基礎人間科学実験実習 III
主題別教育科目「心と社会」
基礎人間科学概論
卒業演習
卒業研究

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書（単著）	言葉と心　―　全体論からの挑戦	中山康雄	2007.1.	勁草書房，227+14
会議報告	言語行為の埋め込みに関する論理的分析	中山康雄	2006.8.	日本認知科学会第２３回大会発表論文集，114-115
会議報告	心の科学における一人称権威の位置づけ	手塚知訓・中山康雄	2006.8.	日本認知科学会第２３回大会発表論文集，316-317
学術論文	共同体存続の条件	中山康雄	2006.8.	アルケー，No. 14, 32-43
著書	"Focus, Presupposition, and Propositional Attitude," in T. Washio et. al. (eds.) *JSAI 2005 Workshops*, LNAI 4012	Yasuo Nakayama	2006	Springer Verlag, 77-84
学術論文	言語行為の埋め込みの志向性変更モデルによる分析	中山康雄	2007.3.	大阪大学人間科学研究科紀要33
学術論文	思考についての哲学的探求　―　ギルバート・ライルの観点から　―	池吉琢磨・中山康雄	2007.3.	大阪大学人間科学研究科紀要33
学術論文	非反射的様相をもつ二様相論理	佐野勝彦・中山康雄	2007.3.	科学基礎論研究，第106号, 1-10
科研報告書	志向性と言語と社会の関係についての分析哲学的研究	中山康雄（編）	2007.3.	平成16年度～18年度科学研究費（基盤研究(c)）研究成果報告書

人間学系　菅野　盾樹

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	55	%
教育	35	%
社会貢献	5	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		5	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
博士後期課程		1	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
研究生		0	人			
学部生		9	人	9 人/5 名の教員		
学位申請者		0	人			

【4】2005（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本記号学会	理事、評議員		
学会	日本記号学会	編集委員		

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
論文受理検討委員会	委員	2003.4	

担当授業科目
基礎人間科学概論
現代記号学特別演習Ⅰ
現代記号学特別演習Ⅱ
基礎人間学特別研究Ⅰ
基礎人間学特別研究Ⅱ
現代記号学特別研究Ⅰ
現代記号学特別研究Ⅱ
現代記号学特定演習Ⅰ
現代記号学特定演習Ⅱ
基礎人間学特定研究Ⅰ
基礎人間学特定研究Ⅱ
現代記号学特定研究Ⅰ
現代記号学特定研究Ⅱ
基礎人間学特講
基礎人間学演習Ⅰ
基礎人間科学実験実習Ⅱ
基礎人間科学実験実習Ⅲ
卒業演習
基礎人間学
社会人・院生特別講義
卒業研究

【5】2005(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
論文	言語音の機能的生成	菅野盾樹・近藤和敬	2007.3.	『大阪大学大学院人間科学研究科紀要』
論文	現代歴史学事典	菅野盾樹	2007	弘文堂
著書	レトリック論を学ぶ人のために	菅野盾樹編著	2007	世界思想社

人間学系　檜垣　立哉

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	50	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		5	人			
	うち	社会人院生		＿＿＿ 人	留学生	＿＿＿ 人
博士後期課程		2	人			
	うち	社会人院生		＿＿＿ 人	留学生	＿＿＿ 人
研究生		＿＿＿	人			
学部生		11	人	（現代哲学系全体で）		
学位申請者		6	人	（現代哲学系全体で）		

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本哲学会	編集委員	2005.7	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
教務委員		2006.4	
大学院GP委員			

担当授業科目
基礎人間学
基礎人間科学演習Ⅰ
基礎人間科学実験実習Ⅰ
基礎人間科学実験実習Ⅱ
基礎人間科学実験実習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
基礎人間学特定研究Ⅰ
基礎人間学特定研究Ⅱ
基礎人間学特講
表象・記号論特講
現代記号学特定演習Ⅰ
現代記号学特定演習Ⅱ
基礎人間学特別演習Ⅰ
基礎人間学特別演習Ⅱ
基礎人間学特別研究Ⅰ
基礎人間学特別研究Ⅱ
現代記号学特別研究Ⅰ
現代記号学特別研究Ⅱ

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書	『生と権力の哲学』	檜垣立哉	2006.5	筑摩書房
論文	「「人間」が解体される場所」『ちくま６月号』	檜垣立哉	2006.6	筑摩書房
論文	「ドゥルーズとメルロ＝ポンティ」『メルロ＝ポンティ研究』	檜垣立哉	2006.7	メルロ＝ポンティ・サークル
論文	「顔の彼方の生」『レヴィナス　哲学雑誌』	檜垣立哉	2006.9	有斐閣
論文	「身体の何が構築されるのか」『現代思想　１０月臨時増刊』	檜垣立哉	2006.10	青土社
共著	『生命と現実　木村敏との対話』	木村敏・檜垣立哉	2006.10	河出書房新社
論文	「第三の時間について　ドゥルーズの時間論（１)」『思想二月号』	檜垣立哉	2007.02	岩波書店
論文	「曖昧さの新たな倫理へ　――インターフェイス論によせて――」『大阪大学ＣＯＥインターフェイスの人文学　理論班報告書』	檜垣立哉	2007.3	大阪大学COE

人間学系　Wolfgang Schwentker

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	30	%
教育	30	30	%
社会貢献	10	10	%
学内運営	30	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		2	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
博士後期課程		1	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
研究生		0	人			
学部生		3	人			
学位申請者		1	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
全集	Globalisierung und Entwicklungspolitik	編集委員	2004.12	現在まで
学会	European Association for Japanese Studies	Convenor	2004.5	現在まで
全集	Neue Fischer Weltgeschichte	編集委員	2003.8	現在まで
全集	Edition Weltregionen	編集委員	2002.8	現在まで
国際雑誌	Max Weber Studies	編集委員	2000.6	現在まで

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
安全衛生委員会	委員	2004.4	現在まで
防災対策委員会	委員	2004.4	現在まで
国際交流室	室員	2005.4	現在まで
図書室	室員	2005.4	現在まで
国際交流委員会（全学）	委員	2005.4	現在まで
国際交流委員会 WG（全学）	委員	2005.4	現在まで
国際交流委員会選考委員会（全学）	委員	2005.4	現在まで

担当授業科目
比較思想史
比較文明学特定演習Ⅰ
比較文明学特定演習Ⅱ
比較文明学特定研究Ⅰ
比較文明学特別研究Ⅰ
比較文明学特別演習Ⅰ
比較文明学特別演習Ⅱ
比較文明学特別研究Ⅰ
比較文明学特別研究Ⅱ
比較思想史特講
卒業演習
卒業研究
基礎人間科学演習Ⅰ
基礎人間科学演習Ⅱ
インターフェイス文明学特定演習Ⅰ
インターフェイス文明学特別演習Ⅰ
インターフェイス文明学特定演習Ⅱ
インターフェイス文明学特別演習Ⅱ
人間科学概論
歴史学のフロンティア
人間科学のフロンティア
基礎人間科学概論
共通教育英語講義シリーズ

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書	Los samuráis.（Die Samurai スペイン語訳）	W.Schwentker	2006	Madrid: Alianza Editorial
論文	Die Megastadt als Problem der Geschichte, in: Wolfgang Schwentker (Hg.), Megastädte im 20. Jahrhundert	W.Schwentker	2006	Göttingen: Vandenhoeck&Ruprecht
論文	Die Doppelgeburt einer Megastadt: Tôkyô 1923-1964, in: Wolfgang Schwentker (Hg.), Megastädte im 20. Jahrhundert	W.Schwentker	2006	Göttingen: Vandenhoeck&Ruprecht
論文	グローバル化と歴史学ーそのテーマ、方法、批判『西洋史学』　印刷中	W.Schwentker	2007	大阪大学文学部西洋史研究室『西洋史学』編集部
論文	Meistererzählungen" in der japanischen Historiographie, in: Michael Lackner (Hrsg.), Selbstbehauptungsdiskurse in Ostasien　印刷中	W.Schwentker	2007	München: Iudicium
編集	Megastädte im 20. Jahrhundert	W. Schwentker	2006	Göttingen: Vandenhoeck&Ruprecht

人間学系　小泉 潤二

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	15	%
社会貢献	15	%
学内運営	50	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。
【人類学研究室では4名の教授が共同で学生の指導を行っています。】

＜人数＞

博士前期課程		9	人			
	うち	社会人院生		人	留学生	1 人
博士後期課程		18	人			
	うち	社会人院生		人	留学生	4 人
研究生		0	人			
学部生		9	人			
学位申請者		3	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
国・地方公共団体	日本学術会議（第 20 期）	第一次連携会員（第 1 部）	2006.3	在任
国・地方公共団体	文部科学省	委員（非公開）	2004.7	在任
国・地方公共団体	国立大学法人	委員（非公開）	2006.10	2007.3
国・地方公共団体	人間文化研究機構国立民族学博物館	運営会議委員	2004.5	在任
国・地方公共団体	独立行政法人日本学術振興会	委員（非公開）	2006.1	在任
公益法人	財団法人　野村国際文化財団	外国人留学生奨学制度選考委員	2006.11	在任
学会	人類学会世界協議会（WCAA － World Council of Anthropological Associations）	代表幹事（WCAA Facilitator）	2005.11	在任
学会	IUAES（国際人類民族科学連合）	IUAES（国際人類民族科学連合）国内委員	1998.7	在任

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
役員会・役員連絡会	総長補佐	2006.4	在任
大阪大学・大阪外国語大学統合推進協議会	委員	2006.4	在任
大阪大学・大阪外国語大学統合推進協議会教育・研究専門部会	委員	2006.4	在任
研究推進室	室員	2005.4	在任
研究推進室　文理融合研究戦略 WG	主査	2005.4	在任
研究推進室　文系研究戦略 WG	副査	2005.4	在任
国際交流推進本部	本部員（研究推進室オブザーバー）	2005.5	在任
国際交流推進本部　JICA協定検討 WG	座長	2006.7	2007.2
部局長会議	総長補佐（オブザーバー）	2006.5	在任
部局長会議	人間科学研究科長・人間科学部長	2004.5	2006.4
教育研究評議会	総長補佐（オブザーバー）	2006.5	在任
教育研究評議会	人間科学研究科長・人間科学部長	2004.5	2006.4
産学官連携問題委員会	人間科学研究科長	2004.5	2006.4
社会教育主事講習運営委員会	人間科学研究科長	2004.5	2006.4
第一種奨学金返還免除候補者選考委員会	人間科学研究科長	2004.5	2006.4
保健センター運営委員会	人間科学研究科長	2004.5	2006.4
大学教育実践センター運営協議会	人間科学研究科長	2004.5	2006.4
コミュニケーションデザイン・センター運営協議会	人間科学研究科長	2004.5	2006.4
RISS（サステイナビリティ・サイエンス研究機構）	運営委員会委員	2006.4	2006.4
RISS（サステイナビリティ・サイエンス研究機構）	企画推進室員・兼任教授	2006.4	在任
英文ホームページワーキング	委員	2006.11	在任
Annual Report 2006-2007 作成ワーキング	委員	2007.2	在任
グローバルコラボレーションセンター設置準備ワーキング	委員	2007.2	在任

担当授業科目
卒業演習
卒業研究
インターフェイス人類学特講Ⅰ
インターフェイス人類学特講Ⅱ
人類学特定研究Ⅰ
人類学特定研究Ⅱ
人間と文化特定演習Ⅱ
インターフェイス人類学特別講義Ⅰ
インターフェイス人類学特別講義Ⅱ
人類学特別研究Ⅰ
人類学特別研究Ⅱ
人間と文化特別演習Ⅱ
基礎セミナー
特別科目「知性への誘い」

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
口頭発表	トランスナショナリティ」という問題群――グアテマラ北西部の 30 年から	小泉潤二	2006.7	大阪大学21世紀COEプログラム 「インターフェイスの人文学」 トランスナショナリティ研究セミナー　第 78 回
論文	Etnicidad y Estado nacional en Huehuetenango, Guatemala: el resultado de las elecciones y el problema del nacionalismo comunal.	Junji Koizumi	2006.8	El mundo maya: miradas japonesas, Kazuyasu Ochiai, ed., UACSHUM (Unidad Academica de Ciencias Sociales y Humanidades), Mexico. pp.157-177.
国際会議発表	Transformation of the Public Image of Anthropology: The Case of Japan	Junji Koizumi	2006.9	Paper presented at the workshop "A WCAA Debate: The Public Image of Anthropology" at the European Association of social Anthropologists 9th Biennial Conference, University of Bristol, Bristol, UK, September 21, 2006.
国際会議発表	Opening of a New Center for International Cooperation at Osaka University: Global Collaboration Center (GLOCOL)	2006.10.17	2006.10	Paper presented at Inaugural Seminars, Session A: "Human Sciences and Global Collaboration" at the Opening Ceremony and Seminars for the Launching of Osaka University Bangkok Center for Education and Research, Shangri-La Hotel BANGKOK, October 17, 2006.
国際会議発表	Public Image of Anthropology in Japan	Junji Koizumi and Eisei Kurimoto	2006.12	Paper presented at the joint conference comprising an intercongress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) and the 2006 annual conferences of the Pan-African Association of Anthropologists (PAAA) and Anthropology Southern Africa (ASnA), "Transcending Postcolonial Conditions: Towards Alternative Modernities," University of Cape Town, Cape Town, South Africa, December 3-7, 2006.
論文	解釈人類学	小泉潤二	2006.12	『文化人類学20の理論』 綾部恒雄編 弘文堂　pp.144-161.
論文	マム――揺れるグアテマラの現代マヤ	小泉潤二	2007.1	『講座　世界の先住民族――ファーストピープルズの現在　08　中米・カリブ海、南米』 黒田悦子・木村秀雄編　明石書店　pp.146-161.
その他	Cliff Geertz	Junji Koizumi	2007.3	Speech at *Remembering Clifford Geertz,* The Institute for Advanced Study, Princeton, March 3, 2007

人間学系　中川 敏

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	35	%
社会貢献	5	%
学内運営	25	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		9	人			
	うち	社会人院生		人	留学生	1 人
博士後期課程		18	人			
	うち	社会人院生		人	留学生	4 人
研究生		0	人			
学部生		9	人			
学位申請者		3	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
共同研究	国立民族学博物館	共同研究員	2006 年 4 月	
共同研究	京都大学東南アジア研究所	学外研究協力者	2006 年 4 月	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
基礎人間科学実験実習 III
文化人類学実験実習 I
基礎人間科学概論
基礎人間科学概論
文化人類学
文化人類学
人類学理論特講
人類学特定研究 II
人類学特別研究 II
卒業研究
人類学特定演習 II
人類学特別演習 II
インターフェイス人類学特講 II
インターフェイス人類学特別講義 II

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
論文	A Personal Account of What I Did at IIAS	Nakagawa Satoshi	2006	International Institute for Asian Studies
論文	焼畑から来る米、店から来る米	中川 敏	2006	ＮＴＴ出版

人間学系　栗本 英世

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	30	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		9	人			
	うち	社会人院生		人	留学生	1 人
博士後期課程		18	人			
	うち	社会人院生		人	留学生	4 人
研究生		0	人			
学部生		9	人			
学位申請者		3	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本アフリカ学会	理事	2002.4	
学会	日本文化人類学会	理事	2003.4	
学会	日本ナイル・エチオピア学会	評議員	1992.4	
公益信託	澁澤民族学振興基金	運営委員	2001.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
大阪大学総合学術博物館運営委員会	委員	2004.4	

担当授業科目
文化人類学
基礎人間科学演習Ⅰ
基礎人間科学演習Ⅱ
基礎人間科学実験実習Ⅰ
基礎人間科学実験実習Ⅱ
基礎人間科学実験実習Ⅲ
人類学理論特講(B)
卒業演習
卒業研究
人類学特定演習Ⅰ(A)
人類学特定演習Ⅱ(A)
人類学特別演習Ⅰ(B)
人類学特別演習Ⅱ(B)
人類学特定研究Ⅰ
人類学特定研究Ⅱ
人類学特別研究Ⅰ
人類学特別演習Ⅱ
人間と文化特定演習Ⅰ
人間と文化特定演習Ⅱ
人間と文化特別演習Ⅰ
人間と文化特別演習Ⅱ
人間と文化特定研究Ⅰ
人間と文化特定研究Ⅱ
人間と文化特別研究Ⅰ
人間と文化特別研究Ⅱ
インターフェイス人類学特講Ⅰ
インターフェイス人類学特講Ⅱ
インターフェイス人類学特別講義Ⅰ
インターフェイス人類学特別講義Ⅱ

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	「戦後スーダンの政治的動態―包括的平和協定の調停から1年3ヵ月を経て」『海外事情』54巻4号	栗本英世	2006年4月	拓殖大学海外事情研究所
学術論文	「グローバル化、ディアスポラ、エスニック・マイノリティ―エチオピア・ガンベラ地方におけるアニュワ人の虐殺をめぐって」日本平和学会編『グルーバル化と社会的「弱者」』(『平和研究』31号)	栗本英世	2006年9月	早稲田大学出版部
学術論文	「『あなたのクラン名はなんですか？』―変容するアニュワ社会における出自集団」田中雅一・松田素二編『ミクロ人類学の実践―エイジェンシー／ネットワーク／身体』	栗本英世	2006年11月	世界思想社

人間学系　中川　理

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	20	%
社会貢献	0	%
学内運営	60	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程			人		
	うち	社会人院生	人	留学生	人
博士後期課程			人		
	うち	社会人院生	人	留学生	人
研究生			人		
学部生			人		
学位申請者			人		

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
基礎セミナー「人類学的映像で知る現代世界」（補佐）
「人間と文化特定演習Ⅱ」（補佐）
「人間と文化特別演習Ⅱ」（補佐）

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	「地域通貨：社会に埋め込まれた経済、再び？」	中川理	2007（刊行予定）	『人類学への招待』（ミネルヴァ書房）
学術論文	「資源化に抗する地域通貨：南フランスの事例から」	中川理	2007（刊行予定	『資源人類学』第五巻『貨幣と資源』（弘文堂）

人間学系　春日　直樹

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	50	%
社会貢献	5	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		9	人			
	うち	社会人院生		人	留学生	1 人
博士後期課程		18	人			
	うち	社会人院生		人	留学生	4 人
研究生			人			
学部生		9	人			
学位申請者		3	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本文化人類学会	理事、学会誌編集副主任	2006 年 4 月	2008 年 3 月
	日本オセアニア学会	評議員	2005 年4 月	2007 年 3 月
客員	東京大学社会科学研究所	客員教授	2007 年4 月	2008 年3 月
共同研究	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	共同研究員	2007 年 4 月	2008 年 3 月
	国立民族学博物館	共同研究員	2007 年 4 月	2008 年 3 月
奨学基金運営	公益信託　山本猛夫記念奨学基金運営委員会	運営委員	2007 年 4 月	2008 年 3 月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
GP推進委員会	フィールドワーク支援委員	2006 年 10 月	2007 年3 月
学生支援委員会	学生支援委員	2006 年 4 月	2008 年 3 月

担当授業科目
文化人類学演習Ⅰ
人間と文化特定演習Ⅰ
人間と文化特別演習Ⅰ
人間と文化特定研究
人間と文化特別研究
卒業研究
人間と文化
人間と文化特講
文化人類学

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書	〈遅れ〉の思考:ポスト近代を生きる	春日直樹(単著)	2007 年 3 月	東京大学出版会

教育学系　藤川 信夫

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		4	人			
	うち	社会人院生		1	人	留学生	0	人
博士後期課程		6	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
研究生		0	人			
学部生		10	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	教育思想史学会	理事・編集委員長	2006.10	
学会	教育哲学会	編集委員	2005.10	
	大阪市立丸山小学校	評議委員	2006	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
教育実習専門部会	委員	2004.4	
教務委員会	副委員長	2006	
図書委員会	委員		

担当授業科目
人間科学概論Ⅲ（人間の形成）
臨床教育学概論
基礎セミナー（子どもの現在）
実践教育論 C
教育人間学 I
教育人間学Ⅱ
教育人間学演習 I
教育人間学演習Ⅱ
臨床教育学実験実習 I
臨床教育学実験実習Ⅱ
臨床教育学実験実習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
教育人間学特講 I

教育人間学特講Ⅱ
教育人間学特定演習Ⅰ
教育人間学特定演習Ⅱ
教育人間学特定研究Ⅰ
教育人間学特定研究Ⅱ
教育人間学特別演習Ⅰ
教育人間学特別演習Ⅱ
教育人間学特別研究Ⅰ
教育人間学特別研究Ⅱ

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	教育学における優生思想の展開	藤川信夫他3名	2006.9	教育思想史学会

教育学系　久保田　健一郎

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	50	%
社会貢献		%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。
＜人数＞

博士前期課程　　人
　うち　社会人院生　　人　　留学生　　人
博士後期課程　　人
　うち　社会人院生　　人　　留学生　　人
研究生　　人
学部生　　人
学位申請者　　人

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	教育思想史学会	編集幹事	2006.10	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
教育人間学

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	近代日本における物を介した人間形成の変化　－人形を巡って-	久保田健一郎	2007.3（予定）	大阪大学大学院人間科学研究科・教育学系

教育学系　藤岡 淳子

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		10	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
博士後期課程		2	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
研究生		0	人			
学部生		34	人			
学位申請者		1	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
教育心理学Ⅰ
教育心理学演習Ⅰ
臨床教育学実験実習Ⅰ
人格心理学特講
教育心理学特別研究Ⅰ
教育心理学特別研究Ⅱ
教育心理学特別演習Ⅰ
教育心理学特別演習Ⅱ
教育心理学特定研究Ⅰ
教育心理学特定研究Ⅱ
教育心理学特定演習Ⅰ
教育心理学特定演習Ⅱ
臨床心理基礎実習Ⅱ
臨床教育学概論
卒業演習
卒業研究

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
専門著書	性暴力の理解と治療教育	藤岡淳子	2006.7	誠信書房
学術論文	攻撃性と衝動性の精神療法	藤岡淳子	2006.8	
学術論文	非行少女の性虐待体験と支援方法について	藤岡淳子, 寺村堅志	2006.12	

教育学系　中谷 素之

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	35	%
社会貢献	15	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		4	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
博士後期課程		1	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
研究生		0	人			
学部生		33	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
入試調査専門委員会	委員	2005. 3.	
部局安全衛生委員	委員	2006. 4.	
豊中地区図書館委員会	委員	2006. 4.	

担当授業科目
人間科学概論Ⅲ
人間科学のフロンティア
対人関係の心理学
臨床教育学概論
発達教育学（教職科目）
教育心理学Ⅱ
臨床教育学実験実習Ⅱ
教育心理学演習Ⅱ
臨床教育学実験実習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
教育心理学特講
教育心理学特定演習Ⅰ
教育心理学特別演習Ⅰ
教育心理学特定研究Ⅰ
教育心理学特定研究Ⅱ
教育心理学特別研究Ⅰ
教育心理学特別研究Ⅱ

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書	社会的責任目標と学業達成過程	中谷　素之	2006.11.	風間書房
著書	学ぶ意欲を育てる人間関係づくり －動機づけの教育心理学－	中谷　素之	2007．3.	金子書房
著書	仲間を育てる 河野義章編著「教育心理学・新版」	中谷　素之	2006.4.	川島書店
著書	動機づけと学習　多鹿秀継・竹内謙彰編「発達と学習の心理学」	中谷　素之	2007．3.	学文社
翻訳	情報処理モデルからみた自己調整学習　塚野州一監訳「自己調整学習の理論」(Zimmerman, B. J.. & Schunk, D. H. 2001 Self-Regulated Learning and Academic Achievement: Theoretical Perspective second ed. Lawrence Erlbaum Associates　Publishers)	中谷　素之	2006．9.	北大路書房
事典	自己効力感 辰野千壽・石田恒好・北尾倫彦監修「教育評価事典」	中谷　素之	2006．6.	図書文化
事典	コンピテンスの尺度 辰野千壽・石田恒好・北尾倫彦監修「教育評価事典」	中谷　素之	2006．6.	図書文化
学術論文（英文）	Construct Validity of Adolescent Resilience Scale	Nakaya, Motoyuki Oshio, Atsushi & Kaneko, Hitoshi	2006．7.	Psychological Reports, Vol. 98.
学術論文	児童・生徒の社会的責任目標と学級適応感・学習動機の関連	出口拓彦・中谷素之・遠山孝司・杉江修治	2006．8.	パーソナリティ研究 15 巻(日本パーソナリティ心理学会)
学術論文	母親の被害的認知が虐待的行為に及ぼす影響	中谷奈美子・中谷素之	2006．8.	発達心理学研究 17 巻(日本発達心理学会)
学術論文	青年期の自己愛傾向とその発達的変化の検討	中山留美子・中谷素之	2006．6.	教育心理学研究 54 巻(日本教育心理学会)
学術論文	学校教育における社会心理学的視点： 動機づけ・対人関係・適応	中谷　素之	2007．3.	教育心理学年報第 46 集(日本教育心理学会)

教育学系　西端　律子

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	20	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		6	人			
	うち	社会人院生		4	人	留学生	0	人
博士後期課程		8	人			
	うち	社会人院生		5	人	留学生	0	人
研究生		3	人			
学部生		8	人			
学位申請者		1	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会活動	教育システム情報学会・関西支部	評議員	平成 18 年 5 月	継続中
学会活動	教育システム情報学会・渉外活性化委員会	幹事	平成 17 年 5 月	継続中
学会活動	教育システム情報学会・e-Learning 海外セミナー	実行責任者	平成 18 年 5 月	継続中
学会活動	情報教育開発協議会・情報教育研究部会	委員	平成 16年 4月	継続中
学会活動	情報教育開発協議会第3回全国大会	実行委員	平成 18 年 5 月	継続中
社会貢献	奈良県シニアワークプログラム「パソコン指導者養成講習会」	講師	平成 18 年 8 月	平成18年 9月
社会貢献	実教出版　教科書編修会議	参加	平成 16 年 4 月	継続中

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
サイバーメディア室	副室長	平成 15 年 4 月	継続中

担当授業科目
教育方法論（豊中・全学共通教育）

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	フィンランドにおける ICT 教育	西端律子・岡本敏雄	印刷中	情報コミュニケーション学会

教育学系　老松　克博

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		6	人			
	うち	社会人院生		1	人	留学生	0	人
博士後期課程		15(うち１名は単独で指導，14 名は教員４名で共同で指導)	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
研究生		0	人			
学部生		3	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	日本ユング心理学研究所	理事	2001.8.	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
対人関係の心理学
教育臨床心理学演習 II
臨床心理学特定研究 I
臨床心理学特定研究 II
臨床心理学特別研究 I
臨床心理学特別研究 II
卒業演習
卒業研究
臨床教育学概論
臨床教育学実験実習 I
臨床教育学実験実習 II
臨床教育学実験実習 III
臨床心理学特講 II
臨床心理基礎実習 I
臨床心理基礎実習 II

臨床心理査定演習 I
臨床心理査定演習 II
臨床心理実習 I
臨床心理実習 II
臨床教育学フィールドワーク実習 I
臨床教育学フィールドワーク実習 II
臨床教育学フィールドワーク特別実習 I
臨床教育学フィールドワーク特別実習 II

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	上智大学臨床心理研究／自己愛の傷つきと自己疎外	老松克博	2006.1.	上智大学臨床心理学研究室
学術論文	心理相談研究／セラピストとセラピストなるもの	老松克博	2006.3.	神戸女学院大学大学院人間科学研究科心理相談室
専門著書	臨床心理面接研究セミナー／臨床心理面接:自己をめぐって	伊藤良子編／老松克博	2006.12.	至文堂

教育学系　井村 修

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	15	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		5 人			
	うち	社会人院生	人	留学生	人
博士後期課程		4 人			
	うち	社会人院生	人	留学生	人
研究生		1 人			
学部生		2 人		留学生	1 人
学位申請者		1 人			

博士後期課程の 2 年次以上の 14 人は教員 4 人による集団指導であった。

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
入試委員会	入試委員	16 年 4 月	
心理教育相談室運営委員	心理教育相談室室長	16 年 4 月	
身体障害学生修学支援委員会	委員長	15 年 10 月	
人間科学研究科運営会議	運営委員	17 年 5 月	

担当授業科目
教育臨床心理学Ⅱ（教職科目）
対人関係の心理学
子どもの現在
教育臨床心理学Ⅱ（専門科目）
教育臨床心理学演習Ⅰ
臨床教育学実験実習Ⅰ
臨床教育学実験実習Ⅱ
臨床教育学実験実習Ⅲ
臨床心理基礎実習Ⅰ
臨床心理基礎実習Ⅱ
臨床心理学特講Ⅱ
臨床心理学特定研究Ⅰ
臨床心理学特定研究Ⅱ
臨床心理学特定演習Ⅰ

臨床心理学特定演習Ⅱ
臨床心理査定演習Ⅰ
臨床心理査定演習Ⅱ
臨床心理実習Ⅰ
臨床心理実習Ⅱ
臨床心理学特別研究Ⅰ
臨床心理学特別研究Ⅱ
臨床心理学特別演習Ⅰ
臨床心理学特別演習Ⅱ
卒業演習
卒業研究

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書	「統合失調症の事例研究」 現代のエスプリ別冊	井村修	2007/4	至文堂
著書	「臨床家のためのこの１冊」 マックス・バーチウッド，クリス・ジャクソン著『統合失調症―基礎から臨床への架け橋』	井村修	2007/1	金剛出版
論文	筋ジストロフィーの療養をめぐる臨床心理学的援助の研究（1）	梁誠崇・谷口弘恵・成田慶一・中田果林・原三恵・東井申雄・西川佳織・井村修	2006/12	大阪大学人間科学研究科心理教育相談室紀要第 12 号

教育学系　宮田 敬一

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞　（後期課程 2 年以上はすべての教員が指導）

博士前期課程		3	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
博士後期課程		14	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
研究生		0	人			
学部生		6	人			
学位申請者		0	人			

【4】2005（平成17）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
心理教育相談室	副室長	2005.4.	
大学院入試運営委員	委員	2006.4	
動物実験委員会委員	委員	2006.4	

担当授業科目
教育臨床心理学演習Ⅰ
臨床心理学Ⅰ
臨床教育学実験実習Ⅰ
臨床教育学実験実習Ⅱ
臨床教育学実験実習Ⅲ
臨床心理面接特講Ⅰ
臨床心理面接特講Ⅱ
臨床心理査定演習Ⅰ
臨床心理査定演習Ⅱ
臨床心理学特定演習Ⅰ
臨床心理学特定演習Ⅱ
臨床心理基礎実習Ⅰ
臨床心理基礎実習Ⅱ
臨床心理実習Ⅰ
臨床心理実習Ⅱ
臨床心理学特定研究Ⅰ

臨床心理学特定研究Ⅱ
臨床心理学特別演習Ⅰ
臨床心理学特別演習Ⅱ
臨床心理学特別研究Ⅰ
臨床心理学特別研究Ⅱ
臨床心理学特講Ⅰ
基礎心理学
卒業演習
卒業研究

【5】2005(平成17)年度　著書･論文

分類(著書･学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
編著書	軽度発達障害へのブリーフセラピー	宮田敬一	2006.7	金剛出版
学術論文	顔系への臨床動作法と自律神経機能	飯森洋史・宮田敬一・田中志野・吉川吉美	2006.5	心療内科　10,3,196-201.科学評論社
学術論文	臨床家のためのこの一冊	宮田敬一	2006.9.	臨床心理学,6,5,703-705 金剛出版
学術論文	ブリーフセラピーのコンサルテーションに関する考察(1) ―クライエントの問題と解決のとらえ方をめぐって―	青木みのり・宮田敬一	2007.3	日本女子大学紀要人間社会学部　第17号　45-59
学術論文	ブリーフセラピーにおける終結	宮田敬一	2007.3	臨床心理事例研究京都大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要　第33号
訳書	構成主義的心理療法ハンドブック	監訳　児島達美	2006.9.	金剛出版
学会発表	Symposium "Further development of hypnotherapy": The therapeutic meaning of incorporating a hypnotic intervention in brief therapy	Keiichi Miyata	2006.8	2006 International Congress of Psychotherapy in Japan and The Third International Conference of the Asian Federation for Psychotherapy

教育学系　大前　玲子

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	25	%
社会貢献	30	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		20 人				
	うち	社会人院生	1 人	留学生		人
博士後期課程		人				
	うち	社会人院生	人	留学生		人
研究生		人				
学部生		人				
学位申請者		人				

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	箱庭療法における認知−物語的アプローチの導入	大前玲子	2007.3 発行予定	大阪大学教育学年報第12号

教育学系　近藤 博之

【2】学期中のあなたの勤務時間は，どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の，以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	15	%
社会貢献	5	%
学内運営	60	%

【3】あなたの指導する大学院生等について，以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		3	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
博士後期課程		5	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
研究生		0	人			
学部生		13	人	教員 2 人		
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	日本教育社会学会	理事	2003.10	2007.9
	社会調査士資格認定機構	理事	2003.10	未定

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
部局長会議	委員	2006.5	2008.4
教育研究評議会	委員	2006.5	2008.4
発明委員会，他	委員	2006.5	2008.4

担当授業科目
教育動態学演習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅰ
教育環境学実験実習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅲ
教育社会学特定演習Ⅰ
教育社会学特定演習Ⅱ
教育社会学特定研究Ⅰ
教育社会学特定研究Ⅱ
教育社会学特別演習Ⅰ
教育社会学特別演習Ⅱ
教育社会学特別研究Ⅰ
教育社会学特別研究Ⅱ
卒業演習
卒業研究

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	移動表による職業的地位尺度の構成	近藤博之	2006.9	数理社会学会

教育学系　　中村　高康

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	45	%
社会貢献	5	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞　（すべて2名の教員が指導）

博士前期課程		3	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生　0　人
博士後期課程		4	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生　0　人
研究生		0	人			
学部生		13	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	府立 A 高校学校協議会	学校評議員	2005.4	2007.3
	府立 B 高校職員研修	講師	2006.9	2006.9
	府立 C 工科高校職員研修	講師	2007.3	2007.3

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
評価・広報室	オブザーバー	2004.5	
データ管理分析室運営委員会	データ管理分析室員	2004.5	
学務情報化会議	委員	2006.4	

担当授業科目
高等教育論特講(院)
教育社会学特定演習 I(院・共同)
教育社会学特定演習 II(院・共同)
教育社会学特別演習 I(院・共同)
教育社会学特別演習 II(院・共同)
教育社会学特定研究 I(院・共同)
教育社会学特定研究 II(院・共同)
教育社会学特別研究 I(院・共同)
教育社会学特別研究 II(院・共同)
教育と社会(学部)
教育と社会(学部)
教育社会学演習 I(学部)
教育環境学実験実習 I(学部・共同)
教育環境学実験実習 II(学部・共同)
教育環境学実験実習 III(学部・共同)
教育環境学概論(学部・共同)
教育環境学(教職)
卒業演習
卒業研究

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
会議報告	進路多様校１年生の「選択」−高校3年間の進路変容過程に関する継時的研究(1)−	中村高康・越智政治・片山悠樹・藤原翔・西田亜希子	2006 年 9 月	日本教育社会学会第 58 回大会（大阪教育大学)
学術論文	大学から職業へ III その1−就職機会決定のメカニズム−	苅谷剛彦・平沢和司・本田由紀・中村高康・小山治	2007 年 3 月	東京大学大学院教育学研究科紀要第 46 巻、43-74 頁。

教育学系　小野田　正利

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	20	%
社会貢献	20	%
学内運営	40	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		4	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
博士後期課程		2	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
研究生		1	人			
学部生		17	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006(平成18)年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	吹田市	社会教育委員	2004.3.	
	大阪市	視聴覚映画選定委員長	2004.4.	
	学術振興会	科学研究費審査委員	2006.1.	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
教育実習等専門部会	委員長	2004.4.	
データ管理分析室運営委員会	委員長	2006.5.	

担当授業科目
学校経営論(学部)
教育制度学演習Ⅰ(学部)
教育制度学演習Ⅱ(学部)
教育環境学実験実習Ⅰ(学部)
教育環境学実験実習Ⅱ(学部)
教育環境学実験実習Ⅲ(学部)
卒業演習(学部)
卒業研究(学部)
学校経営学特講(大学院)
教育制度学特定演習Ⅰ(大学院)
教育制度学特定演習Ⅱ(大学院)
教育制度学特別演習Ⅰ(大学院)
教育制度学特別演習Ⅱ(大学院)
教育制度学特別研究Ⅰ(大学院)
教育制度学特別研究Ⅱ(大学院)

教育制度学特定研究Ⅰ（大学院）
教育制度学特定研究Ⅱ（大学院）
教育環境学概論（共通教育）※分担
基礎セミナー（子どもの現在）（共通教育）※分担
教育実習（教職科目）
教育実習・事前指導および事後指導（教職科目）
教育環境学（教職科目）
総合演習（教職科目）

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書	悲鳴をあげる学校～親の“イチャモン”から“結びあい”へ	小野田正利	2006.12.	旬報社
論文（シリーズ）	悲鳴をあげる学校（第１回～１２回）	小野田正利	2006.4～2007.3.	『月刊高校教育』学事出版 毎月６頁分掲載
著書	子どものために手をつなぐ ～学校へのイチャモン（無理難題要求）のウラにあるもの～	小野田正利	2006.4.	大阪大学・人間科学研究科・教育制度学研究室 32p.
著書	子どものために手をつなぐ２ ～学校へのイチャモン（無理難題要求）のウラにあるもの	小野田正利	2007.1.	大阪大学・人間科学研究科・教育制度学研究室 32p.
著書（共著）	教育小六法 2007（平成 19 年版）	市川・浦野 小野田・窪田 中嶋・成嶋	2007.2.	学陽書房
論文	学校とイチャモン（無理難題要求）～教職員の“考え方”と保護者の“思い”	小野田正利	2006.10	『教育』国土社 pp.76-83.
シンポジウム総括	公開シンポジウム　学校とマスコミの間にある距離～互いの実像の「理解」から“学校”と“報道”の課題を探る	小野田正利	2006.11	日本教育制度学会『教育制度学研究』第 13 号 pp.6-66.
論文	〈みんなの学校〉そして〈みんなで学校〉を考える	小野田正利	2006.8	『人権 21・調査と研究』岡山人権問題研究所 pp.51-56
課題研究総括	「教育改革」に揺れる学校現場（２）	小野田正利	2006.6	日本教育経営学会『日本教育経営学会紀要』第 48 号 pp.205-208
論文	３歳になった能勢の一貫教育～自立のために、まだ支えが必要	小野田正利	2007.3	『月刊高校教育』学事出版 pp.96-99

教育学系　平沢 安政

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	20	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		3	人			
	うち	社会人院生		1	人	留学生	0	人
博士後期課程		13	人			
	うち	社会人院生		2	人	留学生	0	人
研究生		1	人			
学部生		5	人			
学位申請者		1	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
審議会	大阪府人権施策推進審議会	委員	1999.5	
審議会	大阪府同和問題解決推進審議会	委員	2005.4	
審議会	奈良県人権施策推進審議会	副座長	1998.4	
運営委員会	箕面市萱野人権文化センター運営委員会	会長	1997.4	
推進委員会	東淀川人権教育総合推進委員会	アドバイザー	1995.4	
協会	大阪府人権協会	理事	2002.3	
研究所	部落解放・人権研究所	理事	2005.7	
研究センター	世界人権問題研究センター	人権教育班リーダー	2006.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
人権問題委員会	委員	2005.4	

担当授業科目
人権教育学Ⅱ
人権教育学
人権教育学特講
生涯教育学特講
教育環境学実験実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
人権教育学演習Ⅰ、Ⅱ
生涯教育学特定演習Ⅰ、Ⅱ
生涯教育学特別演習Ⅰ、Ⅱ
生涯教育学特定研究Ⅰ、Ⅱ
生涯教育学特別研究Ⅰ、Ⅱ
教育環境学概論
卒業演習、卒業研究

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	求められる人権教育とは―海外での取り組みを踏まえて	平沢安政	2006.1	解放出版社
エッセイ	人権教育に新しい風を	平沢安政	2006.2	大阪府人権協会
学術論文	「第二次とりまとめ」を活用する視点および課題について	平沢安政	2006.3	明治図書
学術論文	人権についての新しいとらえ方	平沢安政	2006.3	大阪府青少年活動財団
学術論文	人権を身近に、そして地球規模でとらえよう	平沢安政	2006.4	大阪市教育委員会
翻訳	キー・コンピテンシー：人生の重要な課題に対応する	平沢安政	2006.5	明石書店
会議報告	人権教育国際会議報告―多様で変化するアジアにおける人権教育をテーマに台北で	平沢安政	2006.9	解放出版社
学術論文	これからの人権教育に求められる視点	平沢安政	2006.12	部落解放・人権研究所
学術論文	これからの人権教育推進にあたって	平沢安政	2007.2	日本教育新聞社

教育学系　木村　涼子

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	45	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		3	人			
	うち	社会人院生		1	人	留学生	0	人
博士後期課程		13	人			
	うち	社会人院生		2	人	留学生	0	人
研究生		1	人			
学部生		4	人			
学位申請者		1	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本女性学会	幹事	2006.4	2008.3
審議会	大阪府男女共同参画審議会	委員	2006.4	2008.3
審議会	大阪男女共同参画活動事業審査委員会	委員	2006.7	2007.3
審議会	吹田市男女共同参画審議会	副会長	2006.4	2008.3
審議会	豊中市男女共同参画審議会	委員	2006.4	2008.3
研究所	大阪府立大学女性学研究センター	学外研究員	2006.4	2007.3

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
紀要編集員会（部内）	委員	2006.4	2007.3

担当授業科目
人間科学概論Ⅲ
教育環境学概論
教育環境学(教職科目)
生涯教育学
社会教育学Ⅱ
社会教育学演習Ⅰ
社会教育学演習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅰ
教育環境学実験実習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅲ
生涯教育学特定演習Ⅰ(前期課程)
生涯教育学特定演習Ⅱ(前期課程)
生涯教育学特定研究Ⅰ
生涯教育学特定研究Ⅱ
生涯教育学特別演習Ⅰ(後期課程)
生涯教育学特別演習Ⅱ(後期課程)
生涯教育学特別研究Ⅰ
生涯教育学特別研究Ⅱ
卒業演習
卒業研究

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	近代家族における「主婦」と「良人」の甘い生活 ー戦前の大衆婦人雑誌『主婦之友』『婦人倶楽部』の誌面分析ー	木村涼子	2006.4	『女性学研究』大阪府立大学女性学研究センター
報告書	大阪の私立学校における男女共学化の研究	木村涼子	2006.6	『男女共同参画社会における男女共学化・共修化の研究』文部科学省科学研究費研究グループ
専門著書	「戦後つくられる『男』のイメージー戦争映画にみる男性性の回復の道程」(『男性史３「男らしさ」の現代史』)	木村涼子	2006.12	日本経済評論社
専門著書	モノと子どもの戦後史	天野正子・石谷二郎・木村涼子	2007.2	吉川弘文館

教育学系　福嶋 順

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	40	%
社会貢献	5	%
学内運営	25	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		3	人			
	うち	社会人院生		1	人	留学生	人
博士後期課程		6	人			
	うち	社会人院生			人	留学生	人
研究生		1	人			
学部生		1	人			
学位申請者			人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
教育環境学実験実習Ⅱ
総合演習（教職科目）

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
論文	「NPO による生涯学習施設運営」赤尾勝己編『現代のエスプリ　生涯学習社会の諸相』No.466、110-119 頁	福嶋　順	2006 年 5 月	至文堂
論文	「NPO による高齢者教育」 堀薫夫編著『教育老年学の展開』 177-191 頁	福嶋　順	2006 年 9 月	学文社

教育学系　志水 宏吉

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		10	人			
	うち	社会人院生		1	人	留学生	0	人
博士後期課程		5	人			
	うち	社会人院生		1	人	留学生	0	人
研究生		2	人			
学部生		17	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本教育社会学会	理事	2000.4	
学会	日本カリキュラム学会	理事	2001.4	
学会	Race Ethnicity & Education 誌	海外編集委員	1999.9	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
教職課程委員会		2004.4	

担当授業科目
教育環境学概論
教育計画学Ⅰ
教育計画学Ⅱ
教育計画学演習Ⅰ
教育計画学演習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅰ
教育環境学実験実習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
教育文化学特講
教育学特別講義Ⅱ
教育文化学特定演習Ⅱ
教育文化学特定演習
教育文化学特講
学校社会学特講
教育文化学特定演習Ⅰ
教育文化学特定演習Ⅱ
教育文化学特定研究Ⅰ
教育文化学特定研究Ⅱ
教育学特別講義Ⅱ
教育文化学特別演習Ⅰ
教育文化学特別演習Ⅱ
教育文化学特別研究Ⅰ
教育文化学特別研究Ⅱ

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
報告書	ニューカマー児童生徒の就学・学力・進路の実態把握と環境改善に関する研究	志水宏吉	2006.3	大阪大学大学院人間科学研究科

教育学系　若槻 健

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		9	人			
	うち	社会人院生		1	人	留学生	0	人
博士後期課程		4	人			
	うち	社会人院生		1	人	留学生	0	人
研究生		2	人			
学部生		17	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
自治体	豊中市	とよなかボランティア活動支援実行委員会委員	2006.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
道徳同和教育論（教職科目）

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書（分担執筆）	コミュニティ教育学の学習論	若槻健	2007.2	高田一宏編『コミュニティ教育学への招待』173-188
学術論文	市民教育の概念とその再定義	若槻健	2006.6	『関西教育学会研究紀要』（関西教育学会）第 6 号、47-63
学術論文	協働的サービス・ラーニングを通じた多元的市民性教育の構想	若槻健	2007.3	『日本特別活動学会紀要』（日本特別活動学会）第 15 号
学術論文	地域社会とローカル・トラック	若槻健	2007.3	『高校統廃合の地域コミュニティに対する影響についての社会学的研究』科研基盤Ｃ　15～18 年度、研究代表者　轟亮
研究報告	新しい学びの場の創出に向けた学校インターンシップ	若槻健	2006.9	『日本学習社会学会年報』(日本学習社会学会)第 2 号、29-30
解説・総説	地域ネットワークを生かす学校改善マネジメント	若槻健	2006.11	八尾坂修(編)『子どもの人間力を育てる学校改善マネジメント』教育開発研究所、172-175
解説・総説	データで見る「先生」	若槻健	2006.12	佐藤晴雄(監修)『「保護者力」養成マニュアル』時事通信社、28-29
解説・総説	巻頭講義　家庭・地域社会の教育力の向上にどう取り組むか	若槻健	2007.1	『別冊教職研修「学校管理職合格セミナー」』2007 年 2 月号、11-14

共生学系　内海　成治

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	25	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程　10 人を 2 人の教員が指導
うち　社会人院生　1　人　留学生　5　人

博士後期課程　10 人を 2 人の教員を指導
うち　社会人院生　4　人　留学生　1　人

研究生　人
うち　留学生　　人

学部生　75 人を 5 人の教員が指導

学位申請者　3　人

【4】2005（平成17）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	国際協力機構	国際協力研究編集委員	1997.4	
学会	国際ボランティア学会	会長	2004.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
ボランティア教育学（国際教育協力論）
ボランティア教育方法論（国際協力論）
ボランティア人間科学演習Ⅱ
ボランティア人間科学実験実習Ⅰ
ボランティア人間科学実験実習Ⅱ
卒業演習
卒業研究
国際教育協力論特講
国際人間開発学特講
国際協力学特定演習Ⅰ
国際協力学特定演習Ⅱ
国際協力学特定研究Ⅰ
国際協力学特定研究Ⅱ
国際社会活動論特講
国際協力学特別演習Ⅰ
国際協力学特別演習Ⅱ
国際協力学特別研究Ⅰ
国際協力学特別研究Ⅱ

【5】2005（平成17）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	ケニアの「小さい学校」の意味―マサイランドにおける不完全学校の就学実態	内海成治・澤村信英・高橋真央・浅野円香	２００６．10	国際教育協力論集,vol. 9, No.2,27-36.

共生学系　中村 安秀

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	40	%
社会貢献	15	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞　（すべて2名の教員が指導）

博士前期課程		18 人				
	うち	社会人院生	6 人	留学生	10 人	
博士後期課程		19 人				
	うち	社会人院生	9 人	留学生	1 人	
研究生		4 人				
学部生		18 人				
学位申請者		4 人				

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
委員会等	国際協力機構（JICA）・国別特設研修ブラジル出産時ケア運営委員会	運営委員長	2002 年 4 月	現在
委員会等	JICA）・ラオス子ども健康プロジェクト	国内委員	2005 年 4 月	現在
委員会等	JICA・保健医療分野課題別支援委員会	委員	2005 年 4 月	現在
委員会等	JICA・救急大災害医療セミナー運営委員会	運営委員	2002 年 4 月	現在
委員会等	エイズ予防財団・エイズ対策研究推進事業運営委員会	運営委員	2005 年 4 月	現在
NGO 活動	ジャパン・プラットフォーム	副代表理事	2003 年 4 月	現在
学会	日本国際保健医療学会	評議員	2003 年 4 月	現在
学会	学会誌「国際保健医療」	編集委員長	2003 年 4 月	現在
学会	日本子どもの虐待防止学会・国際活動委員会	副委員長	2005 年 4 月	現在
NGO 活動	特定非営利活動法人 Health and Development Services（HANDS）	代表理事	2001 年 4 月	現在

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
海外教育研究拠点ワーキング・グループ	委員	2005.4.1.	

担当授業科目
特別講義Ⅱ　（医学系研究科保健学専攻）
国際保健開発論特論（人間科学研究科）
国際保健開発論特講（人間科学研究科）
環境保全論（人間科学部）
多文化共生論（人間科学部）
多文化共生学特講（人間科学研究科）
国際社会活動論特講（人間科学研究科）
国際保健学特講（人間科学研究科）
ボランティア人間科学演習Ⅱ
ボランティア人間科学実験演習Ⅰ
ボランティア人間科学実験演習Ⅱ
ボランティア人間科学実験演習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
国際協力論特定演習Ⅰ
国際協力論特定演習Ⅱ
国際協力論特定研究Ⅰ
国際協力論特定研究Ⅱ

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
原著	外国人の子どもの教育環境と進路の関連―パイロット地域・岐阜県可児市における就学実態調査から	小島祥美，中村安秀	2006.6.	国際教育評論
原著	日本語ができない外国人妊産婦の周産期医療上の問題点と支援に関する研究―医療機関における 12 年間の分娩事例の分析より―	井上千尋，松井三明，李節子，中村安秀，箕浦茂樹，牛島廣治	2006.4.	国際保健医療
原著	「日本語指導が必要な」外国人児童生徒を取り巻く教育課題―岐阜県可児市を事例として	小島祥美，中村安秀	2006.7.	多文化共生研究年報
解説・総説	子どもを守る―国際的課題	中村安秀	2006.8	公衆衛生
解説・総説	戦後復興における公衆衛生人材の育成	中村安秀	2006.9	からだの科学増刊
解説・総説	外国人母子保健医療の特徴	中村安秀	2006.9	治療「プライマリ・ケアのためのよりより外国人診療」
解説・総説	周産期分野における国際保健医療協力	中村安秀	2007.1	日本未熟児新生児学会雑誌
著書	国際機関とNGO	中村安秀	2006.4	標準公衆衛生・社会医学、医学書院
著書	地域のみんなで児童虐待をストップ	中村安秀	2006.7	私たちの指導計画 2006，全国社会福祉協議会

共生学系　関 嘉寛

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	15	%
社会貢献	5	%
学内運営	40	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程 ＿＿＿＿ 人
　うち 社会人院生 ＿＿＿＿ 人　留学生 ＿＿＿＿ 人
博士後期課程 ＿＿＿＿ 人
　うち 社会人院生 ＿＿＿＿ 人　留学生 ＿＿＿＿ 人
研究生 ＿＿＿＿ 人
学部生 ＿＿＿＿ 人
学位申請者 ＿＿＿＿ 人

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
都市とメディア
減災コミュニケーションⅠ
減災コミュニケーションⅡ

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	台湾 921 震災後における農山村の復興 —桃米生態村の事例研究—	高玉潔・渥美公秀・加藤謙介・宮本匠・関嘉寛・諏訪晃一・山口悦子	印刷中	日本自然災害学会
学術論文	災厄の記憶と伝承の可能性	関　嘉寛	平成 19 年 3 月	大阪大学 21 世紀 COE プログラム「人文学のインターフェース」報告書『臨床と対話』

共生学系　堤 修三

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	10	%
教育	30	%
社会貢献	30	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		1	人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
博士後期課程			人			
	うち	社会人院生	0	人	留学生	0 人
研究生		0	人			
学部生		6	人			
学位申請者		7	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
財団法人	三井住友海上福祉財団	理事	2005.7.1.	
		選考委員	2004.8.20.	
社会福祉法人	大阪府社会福祉協議会	社会貢献基金運営委員会委員長	2004.12.1.	
NPO法人	地域ケア政策ネットワーク	理事	2004.7.23.	2006.7.22
社会福祉法人	奉優会	評議員	2004.5.24.	
社会福祉法人	浴風会国際長寿センター	理事	2005.4.1.	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
中之島講座運営委員会（全学委員会）	委員	2005.4.1.	
運営会議（部局委員会）	委員	2005.4.1.	
副部局長		2006.4.1.	
ボランティア人間科学講座（部局委員会）	幹事	2005.4.1.	

担当授業科目
地域活動論
ボランティア指導者育成論
ボランティア人間科学演習Ⅱ
ボランティア人間科学実験演習Ⅰ
ボランティア人間科学実験演習Ⅱ
ボランティア人間科学実験演習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
社会保障政策論特講Ⅰ
社会保障政策論特講Ⅱ
ソーシャルケアシステム論特定演習Ⅰ
ソーシャルケアシステム論特定演習Ⅱ
ソーシャルケアシステム論特定研究Ⅰ
ソーシャルケアシステム論特定研究Ⅱ
ソーシャルケアシステム論特別演習Ⅰ
ソーシャルケアシステム論特別演習Ⅱ
ソーシャルケアシステム論特別研究Ⅰ
ソーシャルケアシステム論特別研究Ⅱ

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
解説・総説	タキシードとTシャツ	堤　修三	2005.4.	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	NHK と年金	堤　修三	2005.4.	月刊介護保険情報
解説・総説	保険料財源の誘惑	堤　修三	2005.5.	月刊介護保険情報
解説・総説	介護保険法改正と事業者規制	堤　修三	2005.5.	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	未来からの自由	堤　修三	2005.6.	月刊介護保険情報
解説・総説	貢献原則とその危険な例外	堤　修三	2005.6.	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	人は何故ケアをするのか	堤　修三	2005.7.	月刊介護保険情報
解説・総説	医療・介護給付費の伸びの抑制を考える	堤　修三	2005.7	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	マネジメントサービスの方法	堤　修三	2005.8.	月刊介護保険情報
解説・総説	迷走する高齢者医療制度改革	堤　修三	2005.8.	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	人民の人民による人民のための	堤　修三	2005.9.	月刊介護保険情報
解説・総説	社会的経済における事業主体	堤　修三	2005.9.	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	障害者自立支援法案の立法政策的検討	堤　修三	2005.9.	社会保険旬報
会議報告	21 世紀の健康保険制度	堤　修三	2005.9.	健康保険
解説・総説	介護予防という権力	堤　修三	2005.10.	月刊介護保険情報
報道	9.11 総選挙　なにが論点「社会保障」	堤　修三	2005.8.30	朝日新聞
解説・総説	介護保険改革－穿った見方	堤　修三	2005.10.	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	憲法の季節	堤　修三	2005.11.	月刊介護保険情報
解説・総説	バッポン改革という呪文	堤　修三	2005.11.	月刊シニアビジネスマーケット

解説・総説	介護保険創設秘話	堤　修三	2005.11.	いっと 50 号
解説・総説	格差拡大社会と社会保障	堤　修三	2005.12.	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	政策の構成原理	堤　修三	2005.12.	月刊介護保険情報
解説・総説	同情には値すれども－医療制度構造改革試案を読んで－	堤　修三	2006.1.	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	地方の逆選択と社会保障	堤　修三	2006.1.	月刊介護保険情報
解説・総説	介護保険が目指したものと 2005 年改革	堤　修三	2006.1.	病院経営
解説・総説	障害者自立支援法の立法政策的検討	堤　修三	2006.1.	クレリィエール
解説・総説	総医療費の規模に意味はあるか	堤　修三	2006.2.	月刊介護保険情報
解説・総説	施設の総量規制とサービスの質	堤　修三	2006.2.	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	ちょっと逆さま	堤　修三	2006.3.	月刊介護保険情報
解説・総説	遠くて近い介護と医療	堤　修三	2006.3.	月刊シニアビジネスマーケット

共生学系　斉藤 弥生

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	55	%
社会貢献	5	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		5	人			
	うち	社会人院生		1	人	留学生 0 人
博士後期課程		2	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
研究生		0	人			
学部生		17	人	（2～4年生）		
学位申請者		2	人	（課程博士のみ）		

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本地域福祉学会	理事	2005.6	2007.6
学会	北ヨーロッパ学会	常務理事・事務局長	2006.11	2008.11
学術誌	日本生命済生会「地域福祉研究」	編集委員	1998.6	未定

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
なし			

担当授業科目
比較福祉論特別演習Ⅰ（院・後期）
比較福祉論特別演習Ⅱ（院・後期）
比較福祉論特別研究Ⅰ（院・後期）
比較福祉論特別研究Ⅱ（院・後期）
比較福祉論特定演習Ⅰ（院・前期）
比較福祉論特定演習Ⅱ（院・前期）
比較福祉論特定研究Ⅰ（院・前期）
比較福祉論特定研究Ⅱ（院・前期）
比較福祉論特講Ⅰ（院）
比較福祉論特講Ⅱ（院）
ボランティア活動受容論（５セメ）
ボランティア行動発現論（６セメ）
ボランティア人間科学演習Ⅰ（６セメ）
ボランティア人間科学演習Ⅱ（７セメ）
ボランティア人間科学実験実習Ⅰ（４セメ）
ボランティア人間科学実験実習Ⅱ（５セメ）
ボランティア人間科学実験実習Ⅲ（６セメ）

卒業研究
卒業演習
ボランティア論（共通教育）
人間科学概論（共通教育）

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書	「１３－６．福祉 NPO の組織類型」日本地域福祉学会編『新版地域福祉事典』（pp.394-395）	斉藤弥生	2006.9	中央法規出版
著書	「１８－８．スウェーデン」日本地域福祉学会編『新版地域福祉事典』(pp.560-561)	斉藤弥生	2006.9	中央法規出版
著書	「６．高齢者の生活を支える―「脱家族化」と「コミューン主義」からみた自律社会」」岡澤憲芙・中間真一編『スウェーデン・自律社会を生きる人びと』（pp.141－170）	斉藤弥生	2006.8	早稲田大学出版部
著書	「７．障害と自律社会―多くの障害者が納税者となる社会」岡澤憲芙・中間真一編『スウェーデン・自律社会を生きる人びと』（pp. 171-199）	斉藤弥生	2006.8	早稲田大学出版部
著書	「第２部．Ⅰ．ヨーロッパ．スウェーデン」『世界の社会福祉年鑑２００６（第６集）』（pp.93-136）	斉藤弥生	2006.12	旬報社
著書	「第３章. スウェーデンにおける介護サービス供給の多元化と介護ソーシャルエンタープライズの役割について」宮城孝編『地域福祉と民間非営利セクター』（pp.66-94）	斉藤弥生	2007.2	中央法規出版（平成 18 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）による）
著書	「第７章. 日本の介護ソーシャルエンタープライズとその可能性」宮城孝編『地域福祉と民間非営利セクター』(pp.152-175)	斉藤弥生	2007.2	中央法規出版（平成 18 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）による）
著書	「５章．高齢期を支える社会福祉」松村祥子編『欧米の社会福祉』(印刷中)	斉藤弥生	2007.3	財団法人放送大学教育振興会
著書	「９章. スウェーデンの社会福祉の現状と課題」松村祥子編『欧米の社会福祉』(印刷中)	斉藤弥生	2007.3	財団法人放送大学教育振興会
論文	「改正介護保険と日本の介護保障－国際比較の視点で考える－」（pp.30-54）	斉藤弥生	2006.11	財団法人地方自治総合研究所
ビデオ教材	「第５回．高齢期を支える社会福祉」松村祥子編『欧米の社会福祉』(45 分)	斉藤弥生	2007.3	放送大学
ビデオ教材	「第９回. スウェーデンの社会福祉の現状と課題」松村祥子編『欧米の社会福祉』（放送大学出版会）（45 分）	斉藤弥生	2007.3	放送大学
記事	「介護リスクに弱い家族」	斉藤弥生	2007.3	芦屋市広報

共生学系　渥美　公秀

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	50	%
教育	35	%
社会貢献	10	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		1	人			
	うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
博士後期課程		4	人			
	うち	社会人院生		1	人	留学生	0	人
研究生		2	人			
学部生		13	人			
学位申請者		0	人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	ひょうごボランタリープラザ運営協議会（兵庫）	委員	2006	
	大阪府教育コミュニティづくり推進協議会（大阪府）	委員	2006	
	大阪府青少年問題協議会（大阪府）	委員	2006	
	大阪府学校教育審議会委員（大阪府）	委員	2006	
	地域防災体制検討委員会（兵庫県防災監）	委員	2006	
	豊中市社会教育委員会（豊中市）	委員	2005	
	守口市教育委員会（守口市）	委員	2006	
	企画実行委員会（日本学生援機構）	委員	2006	
	関西大学人間活動理論研究センター（関西大学）	客員研究員	2005	
	関西学院大学災害復興制度研究所	客員研究員	2005	
	（特活）日本災害救援ボランティアネットワーク	理事	2006	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
部局安全衛生委員会	委員	2006.5	
防災対策委員会	委員	2006.5	
セクシャルハラスメント防止・対策委員会	委員	2006.5	

担当授業科目
インターフェイス共生論特講
ボランティア人間科学フィールドワーク演習Ⅰ・Ⅱ
ボランティア人間科学方法実習Ⅰ・Ⅱ
インターフェイス共生論特別講義
ボランティア人間科学フィールドワーク特別実習Ⅰ・Ⅱ
援助行動学
ボランティアの集団力学
卒業演習
卒業研究
ボランティア人間科学演習Ⅰ・Ⅱ
ボランティア人間科学実験実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
減災コミュニケーションⅠ・Ⅱ

【5】2006(平成18)年度　著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
解説・総説	災害ボランティアの現状　総合防災学への道	渥美公秀（著）亀田弘行（編）	2006	京都大学防災研究所
学術論文	教育コミュニティづくりとハビタント:地域への外部参入者としての校長	諏訪晃一・渥美公秀	2006	日本教育経営学会紀要, 48, 84-99
学術論文	教育コミュニティづくりと原風景：大阪府田尻町における地域教育協議会の事例から	諏訪晃一・渥美公秀・中村有美・山口悦子	2006	国立オリンピック記念青少年センター紀要. 6, 59-69.
学術論文	高等教育における障害学生支援：大阪大学の取り組み	松原崇・渥美公秀	2007	ボランティア学研究
学術論文	台湾９２１震災後における農山村の復興：桃米生態村の事例研究	高玉潔・渥美公秀・加藤謙介・宮本匠・関　嘉寛・諏訪晃一・山口悦子	2007	自然災害学研究 25, 491-506
紀要論文	協働的実践の三層：減災コミュニケーションデザインプロジェクトを事例として	渥美公秀	2007	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター紀要
紀要論文	災害ボランティアの動向：阪神・淡路大震災から中越地震を経て	渥美公秀	2007	大阪大学人間科学研究科紀要
紀要論文	職場適応援助者事業に関する一考察	青木千帆子・渥美公秀	2007	大阪大学人間科学研究科紀要
紀要論文	モードの交替運動としてのフィールドワーク：新潟中越地震の事例	渥美公秀	2007	SYN（大阪大学大学院人間科学研究科ボランティア人間科学講座紀要）
紀要論文	災害ボランティア経験者が語った「智恵」	高玉潔・渥美公秀	2007	SYN（大阪大学大学院人間科学研究科ボランティア人間科学講座紀要）

付属比較行動実験施設　中道　正之

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	50	%
社会貢献	15	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程　3人を3名の教員が指導
　うち　社会人院生　0　人　留学生　0　人
博士後期課程　2名を3名の教員が指導
　うち　社会人院生　0　人　留学生　0　人
研究生　0　人
学部生　11 名を3名の教員が指導
学位申請者　1　人

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本動物心理学会学会誌「動物心理学研究」	編集委員	2004.1	
学会	日本霊長類学会	評議員	1999.6	
学会	Primates	Associate Editor（編集委員）	1999.1	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
動物実験委員会		1996.8	

担当授業科目
行動生態学実験実習 II
行動生態学実験実習 III
比較行動発達学
比較心理学
霊長類行動学演習
比較行動発達学演習
比較発達心理学特定演習I
比較発達心理学特定演習II
比較発達心理学特定研究I
比較発達心理学特定研究II
比較発達心理学特別演習I
比較発達心理学特別演習II
比較発達心理学特別研究I
比較発達心理学特別研究II

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	A fatal attack on an unweaned infant by a non-resident male in a free-ranging group of Japanese macaques (*Macaca fuscata*) at Katsuyama.	Yamada, K., M. Nakamichi,	2006	Primates
学術論文	Influence of group size on reproductive success of female ring-tailed lemurs: distinguishing between IGFC and PFC hypotheses.	Takahata, Y., N. Koyama, S. Ichino, N. Miyamoto, M. Nakamichi,	2006	Primates
学術論文	Long-term grooming partnerships between unrelated adult females in a free-ranging group of Japanese monkeys (*Macaca fuscata*)	Nakamichi, M., K. Yamada	in press	American Journal of Primatology
学術論文	Assessing the effects of new primate exhibits on zoo visitors' attitudes and perception using three different assessment methods.	Nakamichi, M.	in press	Anthrozoos
学術論文	Spontaneously occurring mother-infant swapping and the relationships of the infants with their biological and foster mothers in a captive group of lowland gorillas (*Gorilla gorilla gorilla*)	Nakamichi,M., A. Silldorff, C. Bingham, P. Sexton,	in press	Infant Behavior and Development
その他	霊長類を観察するということ－山極論文を読んで－	中道正之	2006	心理学評論

附属比較行動実験施設　安田　純

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	50	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程			人		
	うち	社会人院生	人	留学生	人
博士後期課程			人		
	うち	社会人院生	人	留学生	人
研究生			人		
学部生			人		
学位申請者			人		

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学外運営	箕面山ニホンザル保護管理委員会	委員	2004.6	2006.6

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
動物実験委員会	委員	2003.4	

担当授業科目
心理学実験
行動生態学実験実習Ⅰ
行動生態学実験実習Ⅱ
行動生態学実験実習Ⅲ

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
会議報告	Discipline in a nursery school.	YASUDA, J., HINOBAYASHI, T., & MINAMI, T.	2006.6	19th Biennial Meeting of the International Society for the Study of Behavioural Development.
会議報告	Characteristics of developmental change of 12-month in physical growth and development of motor and eating behaviors in infancy.	MINAMI, T., TACHIBANA, Y., HIROSE, T., YASUDA, J., & HINOBAYASHI, T.	2006.6	19th Biennial Meeting of the International Society for the Study of Behavioural Development.
会議報告	Age at menarche of Japanese schoolgirls in February 2005.	Hinobayashi, T., Akai, S., Yasuda, J., Shizawa, Y., Yamada, K., & Minami, T	2006.6	19th Biennial Meeting of the International Society for the Study of Behavioural Development.
会議報告	超低出生体重児の学齢期における心理・行動－その 49　気質傾向と心理検査の関係－	安田純・金澤忠博・北村真知子・糸魚川直祐・南徹弘	2006.11	日本心理学会第 70 回大会発表論文集
会議報告	超低出生体重児の学齢期における心理・行動－その 50　人物画検査（DAM）に関する分析－	北村真知子・金澤忠博・安田純・糸魚川直祐・南徹弘	2006.11	日本心理学会第 70 回大会発表論文集
会議報告	超低出生体重児の学齢期における心理・行動－その 51　広汎性発達障害の出現率と学習障害・行動問題との関係－	金澤忠博・安田純・北村真知子・糸魚川直祐・南徹弘・藤村正哲	2006.11	日本心理学会第 70 回大会発表論文集
会議報告	発達加速現象の研究・その 20－2005 年 2 月の全国初潮調査の結果より－	日野林俊彦・赤井誠生・安田純・志澤康弘・山田一憲・南徹弘・糸魚川直祐	2006.11	日本心理学会第 70 回大会発表論文集
会議報告	食事場面における母親の注意喚起行動と子どもの行動との関連	伊藤美保・志澤康弘・安田純・日野林俊彦・南徹弘	2006.11	日本心理学会第 70 回大会発表論文集
会議報告	2 歳齢保育園児は他児の視線を追従するか	岸本健・志澤康弘・安田純・日野林俊彦・南徹弘	2006.11	日本心理学会第 70 回大会発表論文集
会議報告	身体接触をともなう幼児の仲間関係	山川咲子・安田純・日野林俊彦・南徹弘	2006.11	日本心理学会第 70 回大会発表論文集
会議報告	席取り行動からみた幼児の仲間関係	安田純・日野林俊彦・南徹弘	2007.3	日本発達心理学会第１８回大会発表論文集
学術論文	きょうだい関係におよぼす母親の在・不在の影響	志澤康弘・安田純・日野林俊彦・南徹弘	2007.3	大阪大学大学院　人間科学研究科紀要

サイバーメディア室　内海　博文

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	20	%
社会貢献		%
学内運営	60	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。
＜人数＞

博士前期課程　　人
　うち　社会人院生　　人　　留学生　　人
博士後期課程　　人
　うち　社会人院生　　人　　留学生　　人
研究生　　人
学部生　　人
学位申請者　　人

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	東京裁判から 9.11 へ――人間の安全保障のための予備的考察	内海博文	2006	『情況』第三期第七巻第六号:17-30
学術論文	映像と学習――「遊び」としてのコミュニケーション	内海博文・西端律子	2007	『大阪大学大学院人間科学研究科紀要』第 33 巻
学術論文	人間の安全保障と社会の再想像――9.11 以後の 2 つのトランスナショナルな政治的秩序との対照を手がかりに――	内海博文	2007	大阪大学人間科学研究科 COE 報告書『トランスナショナリティ研究 5　ポストナショナル・シティズンシップ』

国際交流室　山本ベバリー・アン

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	25	%
社会貢献	5	%
学内運営	35	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。
＜人数＞

博士前期課程　＿＿＿＿人
　うち　社会人院生　＿＿＿＿人　留学生　＿＿＿＿人
博士後期課程　＿＿＿＿人
　うち　社会人院生　＿＿＿＿人　留学生　＿＿＿＿人
研究生　＿＿＿＿人
学部生　＿＿＿＿人
学位申請者　＿＿＿＿人

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
開発・女性の地位向上に関する財団法人	財団法人アジア女性交流・研究フォーラムの研究ジャーナル	*Journal of Asian Women's Studies*, の副編集	2002．1	現在まで

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
国際交流委員会	国際交流担当として	2006．1	
英語表記(WG)委員会	構成員	2006．4	

担当授業科目
人間科学特殊講義IV
社会変動論特殊Ｂ

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	'Enduring Ties that Transcend State and Empire: The Life of Etsuko Amakawa in North East China and Japan'	Beverley Anne Yamamoto	2006.12	*Journal of Asian Women's Studies* Vol 15
英訳　序文	Globalization and Gender: Looking at Women in Poor Developing Countries	著者北沢洋子 訳 Beverley Anne Yamamoto	2006.12	*Journal of Asian Women's Studies*、Vol 15
英訳学術論文	企業の社会的責任"ＣＳＲ"の認知度と海外進出企業のイメージ調査 Recognition Levels of Corporate Responsibility (CSR) in Japan	平田トシ子 訳 Beverley Anne Yamamoto	2006.12	*Journal of Asian Women's Studies*、Vol 15

国際交流室　白井 こころ

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	10	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	40	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程			人		
	うち	社会人院生	人	留学生	人
博士後期課程			人		
	うち	社会人院生	人	留学生	人
研究生			人		
学部生			人		
学位申請者			人		

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
国際交流委員会		2006. 1	

担当授業科目

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	Factors associated with ″Ikigai″ among members of a public temporary employment agency for seniors (Silver Human Resources Centre) in Japan	Shirai K, Iso H	2006.4	Health and Quality of Life Outcomes, BMC (BioMed Central)
会議報告	シルバー人材センター会員にみる健康習慣と主観的幸福感に関連する要因	白井こころ・磯博康・福田英輝・多田羅浩三	2006.10	第 65 回日本公衆衛生学会
会議報告	プロダクティブ・エイジングの可能性に関する検討	藤田綾子・白井こころ・仲原純	2007.11	日本心理学会　第 70 回大会
会議報告	主観的健康感に関連する要因についての探索的検討	白井こころ・高鳥毛敏雄・磯博康	2007.01	日本疫学会

学生支援室　丸田　健

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	5	%
教育	40	%
社会貢献	15	%
学内運営	40	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程　＿＿＿＿人
　うち　社会人院生　＿＿＿＿人　留学生　＿＿＿＿人
博士後期課程　＿＿＿＿人
　うち　社会人院生　＿＿＿＿人　留学生　＿＿＿＿人
研究生　＿＿＿＿人
学部生　＿＿＿＿人
学位申請者　＿＿＿＿人

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
研究会	政治哲学研究会	通訳（Heinrich Meier 教授による講演"On Rousseau's *Rêveries*"）	2007.3.31	2007.3.31

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
学生支援室委員会	委員	2005.9	

担当授業科目
「インターンシップ実習 A-I, II」
「インターンシップ A-I, II」
「道徳教育論」

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学会シンポジウム	「ウィトゲンシュタイン：その生と思想から受け取りうるもの」	オーガナイザ：関口浩喜、提題者：鬼界彰夫、星川啓慈、丸田健	2006.10	日本科学哲学会第 39 回大会
出版	「手仕事の道具と生活の確からしさ」、《シリーズ人間論》第一巻『ポストモダン時代の倫理』所収	丸田　健	2007.2	ナカニシヤ出版
翻訳	「レオ・シュトラウスの『自然権と歴史』における正しい生き方としての哲学」（『政治哲学』第 4 号）	ネイサン・タルコフ（丸田訳）	2006.3	政治哲学研究会

学生支援室　鈴木 勇

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程 ＿＿＿＿ 人
　うち 社会人院生 ＿＿＿＿ 人　留学生 ＿＿＿＿ 人
博士後期課程 ＿＿＿＿ 人
　うち 社会人院生 ＿＿＿＿ 人　留学生 ＿＿＿＿ 人
研究生 ＿＿＿＿ 人
学部生 ＿＿＿＿ 人
学位申請者 ＿＿＿＿ 人

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	キャンパス・イノベーションセンター大阪地区連携協議会	幹事	2006.9	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
学生支援室委員会		2006.1	

担当授業科目

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
学術論文	災害時のボランティアに関する調査研究－新潟・福井豪雨および台風 23 号の事例－	鈴木勇	2006.4	主要災害調査
著書（一部）	Roles of volunteers in disaster prevention: Implications of our questionnaire and interview surveys. In Ikeda, S., Fukuzono, T., & Sato, T.(Ed.) *A better integrated governance of disaster risks.*	SUZUKI, Isamu	In Print	Terrapub

研究推進室（フィールドワーク支援オフィス）　太田　心平

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	5	%
教育	15	%
社会貢献	0	%
学内運営	80	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程			人		
	うち	社会人院生	人	留学生	人
博士後期課程			人		
	うち	社会人院生	人	留学生	人
研究生			人		
学部生			人		
学位申請者			人		

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
公益法人	人間文化研究機構国立民族学博物館	共同研究員	2006.10	在任

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目

【5】2006(平成18)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
博士論文	「韓国における現代政治史認識に関する人類学的研究――物語の統合と内破、そしてその先へ」	太田心平	2006.12	大阪大学大学院人間科学研究科
学術論文(査読論文)	"료한: 식민지화 과정에 보이는 일본인의 조선 양반 표상양식에 관한 지식인류학적 연구 (Ryohan: Anthropology of Knowledge and the Japanese Representation of Korean Yanbang under Colonialization)," 『韓國文化人類學』39-2.	오타 심페이(太田心平)	2006.11	韓国文化人類学会
学術論文	「センセーショナリズムへの冷笑――移行の言説としての韓国「民主化」と元労働運動家たちの懐古」, 石塚道子・田沼幸子・冨山一郎(編)『ポスト・ユートピアの民族誌』.	太田心平	近刊	人文書院
学術論文	「反日感情」, 春日直樹(編)『人類学への招待』.	太田心平	近刊	ミネルヴァ書房
翻訳論文	「植民地の帝国大学における人類学的研究――京城帝国大学と台北帝国大学の比較」」, 岸本美緒(編)『東洋学の磁場』(岩波講座「帝国」日本の学知 3).	全京秀(著)・太田心平(訳)	2006.05	岩波書店
研究報告	「在京と在地の士族層における文化的優劣の逆転について――「両班研究」とある旧士族層宗家との間で」, 『朝鮮史研究会会報』166.	太田心平	2007.03	朝鮮史研究会
エッセイ	「友達以上、恋人未満――韓国におけるパンの微妙な位置づけ」, 『vesta(食文化誌ヴェスタ)』64.	太田心平	2006.11	味の素食の文化センター

安全衛生管理部　太刀掛　俊之

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

＜人数＞

博士前期課程		4	人			
	うち	社会人院生		1	人	留学生	人
博士後期課程		1	人			
	うち	社会人院生			人	留学生	人
研究生			人			
学部生		10	人			
学位申請者			人			

【4】2006（平成18）年度　活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
全学安全衛生管理委員会	オブザーバ	2006.4	
吹田地区事業場安全衛生委員会	委員	2006.4	
豊中地区事業場安全衛生委員会	オブザーバ	2006.4	
医学部附属病院・歯学部附属病院事業場安全衛生委員会	オブザーバ	2006.4	

担当授業科目
人間行動学実験実習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅲ

【5】2006（平成18）年度　著書・論文

分類（著書・学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
会議報告	大学における実験研究時の事故に関する傾向分析	太刀掛俊之・山本仁・臼井伸之介	2006.6	日本人間工学会
会議報告	A Study of university accidents with emphasis on human factors.	Tachikake, H. Yamamoto, S. Usui	2006.7	26th International Congress of Applied Psychology